

愛知医科大学学報



令和5年度オープンキャンパス ～ここがわたしの、夢の入り口。～
(関連記事18頁)

＝ 第171号 ＝
2023.7月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1
〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス
www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主な目次 ■

令和4年度愛知医科大学決算	6
春の叙勲の榮譽	8
教授就任インタビュー	16
看護学部キャンドルセレモニー挙行	25
公益財団法人日本医療機能評価機構 病院機能評価認定	32
病院長所信表明	33
看護補助者・医師事務作業補助者の呼称決定	34
Smile ～スマイル～	59

令和6年度医学部医学科学生募集概要

医学部医学科の入試日程等は次のとおりです。

◆入試日程						
区 分	募集人数	出願期間	試験日	試験会場	合格発表日	
学校推薦型選抜（公募制）	約20名※1	11/1～11/10 [消印有効]	11/25	本 学	12/7	
学校推薦型選抜 （愛知県地域特別枠A方式）	約5名※2					
国際バカロレア選抜	若干名					
一般選抜	約65名	12/4～1/4 [消印有効]	第1次試験 1/16	名古屋，東京 大阪，福岡	1/25	
			第2次試験 1/31・2/1 （いずれか希望する日）	本 学	2/8	
大学入学共通テスト 利用選抜	前期	約15名	12/4～1/12 [消印有効]	第1次試験 1/13・14 大学入学共通テスト試験日	大学入学共通テスト 試験会場	2/8
				第2次試験 2/22	本 学	2/29
	後期	約5名	12/4～2/28 [消印有効]	第1次試験 1/13・14 大学入学共通テスト試験日	大学入学共通テスト 試験会場	3/7
				第2次試験 3/12	本 学	3/14
大学入学共通テスト利用選抜 （愛知県地域特別枠B方式）	約5名※2	12/4～2/28 [消印有効]	第1次試験 1/13・14 大学入学共通テスト試験日	大学入学共通テスト 試験会場	3/7	
			第2次試験 3/12	本 学	3/14	

※1 国際バカロレア選抜若干名を含む。

※2 愛知県地域特別枠はA方式・B方式合わせて10名を選抜。

◆入試科目・配点・時間						
区 分	出題教科	選考方法及び出題科目		配 点	時 間	
学校推薦型選抜（公募制） （愛知県地域特別枠A方式）	小論文			5段階評価	60分	
	基礎学力試験 （数学）	『数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B（数列・ベクトル）』		100点	60分	
	基礎学力試験 （外国語）	『コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ』		100点	60分	
	面接（個人面接）			5段階評価	—	
国際バカロレア選抜	書類選考・適性検査・面接（個人面接）					
一般選抜	第1次試験	理 科	『物理基礎・物理』，『化学基礎・化学』，『生物基礎・生物』の3科目のうち2科目選択	200点 （各100点）	100分	
		数 学	『数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B（数列・ベクトル）』	150点	80分	
		外国語	『コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ』	150点	80分	
	第2次試験	小論文			5段階評価	60分
		面接（個人面接）			5段階評価	—
大学入学 共通テスト 利用選抜 （前期）	第1次試験 （大学入学共通テスト）	国 語	『国語』（近代以降の文章のみ利用）	100点	大学入学 共通テスト 実施日程どおり	
		数 学	『数学Ⅰ・数学A』，『数学Ⅱ・数学B』	200点 （各100点）		
		理 科	『物理』，『化学』，『生物』の3科目のうち2科目を選択	200点 （各100点）		
		外国語	『英語（リーディング・リスニング）』※	200点		
	第2次試験	面接（個人面接）		5段階評価	—	
大学入学 共通テスト 利用選抜 （後期）	第1次試験 （大学入学共通テスト）	国 語	『国語』（近代以降の文章，古典〔古文・漢文〕）	200点	大学入学 共通テスト 実施日程どおり	
		数 学	『数学Ⅰ・数学A』・『数学Ⅱ・数学B』	200点 （各100点）		
		理 科	『物理』『化学』『生物』の3科目のうち1科目選択 ※但し2科目受験した場合は高得点の1科目を利用	100点		
		地歴公民	『全科目』のうち1科目選択 ※但し2科目受験した場合は高得点の1科目を利用	100点		
	外国語	『英語（リーディング・リスニング）』※	200点			
第2次試験	面接（個人面接）		5段階評価	—		
大学入学共通テスト利用選抜 （愛知県地域特別枠B方式）	試験内容は大学入学共通テスト利用選抜（前期）と同様					

※ 「英語」はリーディング100点を160点に，リスニング100点を40点に換算します。

令和6年度看護学部看護学科学生募集概要

看護学部看護学科の入試日程等は次のとおりです。

◆入試日程						
区 分	募集人数	出願期間	試験日	試験会場	合格発表日	
学校推薦型選抜	指定校制	約15名	10/16～10/27 [消印有効]	11/11	本 学	11/21
	公募制	約15名				
社会人等特別選抜		約5名				
一般選抜		約50名	12/18～1/15 [消印有効]	1/28		2/7
大学入学 共通テスト 利用選抜	A方式	約10名	12/18～1/19 [消印有効]	1/13・14 大学入学共通テスト試験日	大学入学共通テスト 受験会場	2/14
	B方式	約5名				
◆入試科目・配点・時間						
区 分	出題教科	選考方法及び出題科目		配 点	時 間	
学校推薦型選抜	指定校制	面接		—	—	
	公募制	国 語	『国語総合（古文・漢文を除く。）・現代文B』	100点	45分	
		数 学	『数学Ⅰ・数学A』※1	100点	45分	
		外国語	『コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ』	100点	45分	
		面接（個人面接）		—	—	
社会人等特別選抜	小論文		—	60分		
	面接（個人面接）		—	—		
一般選抜	国語・数学	『国語総合（古文・漢文を除く。）・現代文B』， 『数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A』から1科目を選択※1※2		100点	60分	
	理 科	『物理基礎』，『化学基礎』，『生物基礎』から1科目を選択		70点	45分	
	外国語	『コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ』		100点	60分	
大学入学 共通テスト 利用選抜	A方式	国語・数学	『国語（近代以降の文章）』， 『数学Ⅰ・数学A』，『数学Ⅱ・数学B』から1科目を選択	100点	大学入学 共通テスト 実施日程どおり	
		理 科	①『物理基礎』，『化学基礎』，『生物基礎』，『地学基礎』 ②『物理』，『化学』，『生物』，『地学』 ①から2科目または②から1科目を選択	100点		
		外国語	『英語（リーディング・リスニング）』※3	100点		
	B方式	国 語	『国語（近代以降の文章）』	100点		
		数 学	『数学Ⅰ・数学A』，『数学Ⅱ・数学B』 から1科目を選択	100点		
		地理歴史・ 公民	『世界史B』，『日本史B』，『地理B』，『現代社会』， 『倫理』，『政治・経済』，『倫理，政治・経済』 から1科目を選択	100点		
		理 科	①『物理基礎』，『化学基礎』，『生物基礎』，『地学基礎』 ②『物理』，『化学』，『生物』，『地学』 ①から2科目または②から1科目を選択	100点		
		外国語	『英語（リーディング・リスニング）』※3	100点		

※1 数学Aの出題範囲は「場合の数と確率」及び「図形の性質」とする。

※2 数学Ⅱの「微分・積分の考え」は出題範囲から除く。

※3 外国語の配点は200点を100点に換算する。

令和6年度大学院医学研究科（博士課程）学生募集概要

大学院医学研究科（博士課程）の入試日程等は次のとおりです。

1 募集人員

- ・基礎医学系 13名
- ・臨床医学系 17名

2 入試日程

【第1次募集】

出願期間：令和5年8月1日（火）から
令和5年8月15日（火）まで（必着）
試験日：令和5年10月6日（金）
試験場：大学本館
合格発表：令和5年10月31日（火）

【第2次募集】

注：第1次募集により定員に満たない場合のみ実施
出願期間：令和5年12月1日（金）から
令和5年12月15日（金）まで（必着）
試験日：令和6年2月2日（金）
試験場：大学本館
合格発表：令和6年3月1日（金）

3 試験項目・時間

試験項目	時間
外国語（英語） 〔辞書使用可，電子辞書不可〕 ※外国人志願者の外国語試験は，英語一か国語のみによる試験又は英語及び日本語の二か国語による試験のいずれかを選択する。	10：00 ～12：00
面接試験 （志望する専攻分野に関連する専門試験を含む。）	13：00～

令和6年度大学院看護学研究科（修士課程）学生募集概要

大学院看護学研究科（修士課程）の入試日程等は次のとおりです。

1 募集人員

15名

2 教育研究分野

教育研究分野	専攻領域	コース
基礎看護学	看護管理学	修士論文
母子看護学	母性看護学	
成人・老年看護学	慢性看護学	
精神・在宅・地域看護学	精神看護学	
	在宅看護学	
高度実践看護学	地域看護学	高度実践看護師 （専門看護師[CNS]）
	感染看護学	
	臨床実践看護学	高度実践看護師 （診療看護師[NP]）

試験場：看護学部棟

合格発表：令和5年9月13日（水）

【第2次募集】

第1次募集で定員に達したため，実施しない

4 試験科目・時間

試験時間	試験科目等
9：00～10：30	小論文
10：45～12：15	専門科目（※）
13：15～	面接

※ 専門科目の出題について

- 1 修士論文コース：志願する専攻領域
- 2 高度実践看護師（専門看護師[CNS]）コース：CNS関連分野
- 3 高度実践看護師（診療看護師[NP]）コース：関連領域の病態生理学

3 入試日程

【第1次募集】

出願期間：令和5年8月7日（月）から
令和5年8月21日（月）まで（消印有効）
試験日：令和5年9月6日（水）

創立50周年記念事業募金のご協力をお願い ～先進の医療を人と社会と未来へつなぐ～

愛知医科大学は、昭和46年（1971年）に設置認可を受け、翌昭和47年（1972年）4月に開学しました。その後大学院医学研究科（1980年）、看護学部（1999年）、大学院看護学研究科（2003年）を開設し、現在は2学部・2大学院研究科の学園体制となっています。

「建学の精神」の下、「社会から評価され、選ばれる医科大学」を基本方針として定め、学是「具眼考究」

を掲げ、教育・研究・診療の各分野において活躍すべく、勇往邁進に取り組んで参りました。

本学は、令和4年（2022年）4月に創立50周年を迎えました。次なる50年へ本学が飛躍していくため、「創立50周年記念事業（教育・研究・診療の基盤整備事業）募金」の趣旨をご理解いただき、募金に対しまして格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

《創立50周年記念事業募金概要》

- 募 金 目 的 創立50周年を記念して行う本学の発展に向けた教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備）事業資金
- 目 標 金 額 10億円
- 募 集 金 額 個人1口1万円，法人1口5万円 ※できましたら，多数口のご協力をお願い致します。
- 税制優遇措置 所得税（法人税）上の税額控除が適用される対象法人としての証明を受けております。
 $(\text{寄附金額}^{*1} - 2,000\text{円}) \times 40\%$ を所得税から直接控除^{*2}
 ※1 年間寄附金合計額が年間総所得額等の40%が限度
 ※2 所得税額の25%が限度

＜計算例＞ 愛知医科大学へ10万円寄附
 $(\text{寄附金額 } 100,000\text{円} - 2,000\text{円}) \times 40\% = \text{税額控除額 } \underline{39,200\text{円}}$

【寄附特典1】 創立50周年記念グッズの進呈

1回の寄附金額 1万円以上



カラビナソーラーライト（LEDソーラーライト）

1回の寄附金額 10万円以上



電子体温計（平均20秒予測検温）

【寄附特典2】 寄附者（ご芳名）の顕彰

寄附金額 10万円以上



プレート芳名板（1号館1階ロビー）

寄附金額 100万円以上



タイル芳名板（中央棟エントランスウェイ西側）



お問合せ先

学校法人愛知医科大学 法人本部 資金・出納室
 TEL (0561) 63-1062 FAX (0561) 62-4866
 E-mail : sikin@aichi-med-u.ac.jp



愛知医大 募金 検索

令和4年度愛知医科大学決算

令和5年5月29日に開催された理事会及び評議員会において、令和4年度決算が承認されましたので、その概要をお知らせします。

■概要

新型コロナウイルス感染症は国内では3年前の令和2年1月15日に初めて感染が確認されました。厚生労働省のデータによると、これまでに感染した人は累積で3,300万人に、亡くなった人は7万人を超えるに至りました。このうち、新規陽性者数はオミクロン株が広がった令和4年1月から令和5年2月までの第6波から第8波でおよそ3,121万人と、1年余りで約3年間のおよそ94%を占めており、それほど感染者が多かったのかを如実に表すデータが公表されています。

令和4年度は、爆発的に増えた新規陽性者数が示す通り、もはや他人事ではなく誰でも感染し得ることを認識させられた一年でしたが、こうした状況のもと、教育・研究・診療それぞれの場面で教職員、学生が新型コロナウイルス感染症と真正面から向き合い、過去の経験も活かしながら対応することで、影響を最小限にしつつ、各方面で事業を進めることができました。

教育面では、これまで学修環境整備を推し進め、国家試験対策に力を入れてきましたが、その方策と関係者の努力が遂に結実し、第117回医師国家試験で新卒合格率が開学以来初の100%となりました。新卒者は医師・看護師・保健師の国家試験全てにおいて合格率100%を達成することができ、画期的なこととなりました。

研究面では、大型AMEDプロジェクトの採択などを受け、科研費などの公的研究費総額は前年度から2.3億円増え、総額約9億円となり、研究の活性化が加速度的に進んでいます。

診療面では、引き続きコロナ病床を確保し、患者受入体制を堅持するとともに、補助金を活用して医療用コンテナユニットを整備しました。これにより第9波への備えが一段と整ったことで、これまでに以上に新型コロナウイルス感染症に対応する中核的な医療機関としての役割を担うことができました。

また、愛知県「重症外傷センター」の指定を受け、重症外傷患者を集約化し、外傷外科医のスキル及び外傷治療レベルの向上を図り、重症外傷患者の予後の改善、救命率の向上に繋げることができるようになるなど、大学病院として求められる期待に応える体制を整備することができました。

令和4年度は新型コロナウイルス感染症の流行以降のコロナ対策を引き続き行いつつ、歩みを止めずに様々な事業を実施するとともに、イノベーションプロジェクトを着実に推進し、将来に向けた取り組

みも行いました。

これらの活動成果により、令和4年度の医療収入決算額は、コロナ禍の中、令和3年度の423億円を上回る424億円強（対前年比+0.23%）を計上できました。

一方、支出の中で大きなウェイトを占める人件費は、教職員や病院スタッフの人的資源の確保を図り、人件費率が1.1ポイント上がり、39.4%となりました。

こうしたことから、事業活動収支差は4,200万円強のプラスとなりました。

事業活動収支計算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位：百万円)

		科目	金額	前年差	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	4,959	△47	
		手数料	164	△34	
		寄付金	713	292	
		経常費等補助金	3,778	271	
		付随事業収入	1,791	105	
		医療収入	42,436	90	
		雑収入	1,167	140	
		教育活動収入計	55,007	818	
		事業活動支出の部	人件費	21,772	1,000
			教育研究経費	31,630	1,018
管理経費	1,094		128		
徴収不能額等	12		△0		
教育活動支出計	54,508		2,146		
		教育活動収支差額	499	△1,328	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	2	△3	
		教育活動外収入計	2	△3	
		支出の部	借入金等利息	239	△17
			教育活動外支出計	239	△17
				教育活動外収支差額	△237
		経常収支差額	262	△1,314	
特別収支	収入の部	資産売却差額	-	△7	
		その他の特別収入	294	204	
		特別収入計	294	198	
		支出の部	資産処分差額	98	95
			その他の特別支出	416	403
		特別支出計	514	498	
		特別支出差額	△220	△300	
		基本金組入前当年度収支差額	42	△1,614	
		基本金組入額合計	△3,004	3,078	
		当年度収支差額	△2,962	1,463	
		前年度繰越収支差額	△62,674	2,962	
		基本金取崩額	-	△3,285	
		翌年度繰越収支差額	△65,636	1,140	

(参考)

事業活動収入計	55,303	1,012
事業活動支出計	55,261	2,627

(注1) 科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

(注2) <->の表記は、計算上ゼロあるいは該当数字なしを示し、<0>の表記は、単位未満を切り捨てた場合のゼロを示す。

資金収支計算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位：百万円)

収入の部			支出の部		
科目	金額	前年差	科目	金額	前年差
学生生徒等納付金収入	4,959	△47	人件費支出	21,719	1,028
手数料収入	164	△34	教育研究経費支出	27,711	1,029
寄付金収入	711	290	（うち医療経費支出）	(25,173)	(761)
補助金収入	4,029	481	管理経費支出	1,211	489
（国庫補助金収入）	(1,486)	(98)	借入金等利息支出	239	△17
（地方公共団体補助金収入）	(2,543)	(382)	借入金等返済支出	1,292	△1,120
資産売却収入	0	△1,006	施設関係支出	1,348	457
付随事業・収益事業収入	1,791	105	設備関係支出	3,239	1,317
医療収入	42,436	90	資産運用支出	60	△820
受取利息・配当金収入	2	△3	その他の支出	6,729	1,390
雑収入	1,172	141			
借入金等収入	60	△60			
前受金収入	929	△41			
その他の収入	10,816	1,487			
資金収入調整勘定	△11,294	△1,699	資金支出調整勘定	△7,765	△1,807
前年度繰越支払資金	8,615	2,233	翌年度繰越支払資金	8,607	△8
収入の部合計	64,389	1,937	支出の部合計	64,389	1,937

(注1) 科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

(注2) <->の表記は、計算上ゼロあるいは該当数字なしを示し、<0>の表記は、単位未満を切り捨てた場合のゼロを示す。

貸借対照表

令和5年3月31日現在

(単位：百万円)

資産の部			負債の部		
科目	金額	前年差	科目	金額	前年差
固定資産	47,931	△1,275	固定負債	25,870	△568
有形固定資産	44,018	631	長期借入金	17,343	△1,032
土地	9,930	110	学校債	380	△60
建物	25,491	△809	長期未払金	1,507	470
構築物	1,186	△86	退職給与引当金	6,639	53
教育研究用機器備品	6,126	1,251	流動負債	9,673	984
管理用機器備品	237	72	短期借入金	1,032	-
図書	923	△14	1年以内償還予定学校債	120	△140
車両	125	107	未払金	7,124	1,174
建設仮勘定	1	1	前受金	939	△35
特定資産	2,106	△1,805	預り金	458	△14
学校債償還引当特定資産	500	△200			
借入金返済引当特定資産	500	△300	負債の部合計	35,543	416
医療機器等整備調整資金引当特定資産	1,050	△1,300	純資産の部		
国際交流推進引当特定資産	32	△2	科目	金額	前年差
教育研究活性化引当特定資産	24	△3	基本金	98,825	3,004
その他の固定資産	1,807	△101	第1号基本金	94,849	2,549
借地権	20	-	第4号基本金	3,976	455
電話加入権	5	-	繰越収支差額	△66,776	△2,962
施設利用権	102	△15	翌年度繰越収支差額	△66,776	△2,962
ソフトウェア	1,059	△149	純資産の部合計	32,049	42
有価証券	11	-	負債及び純資産の部合計	67,592	458
長期貸付金	609	63			
保証金	-	△0			
預託金	0	△0			
流動資産	19,661	1,733			
現金預金	8,607	△8			
未収入金	10,257	1,734			
貯蔵品	418	22			
短期貸付金	204	△19			
立替金	2	1			
前払金	174	3			
資産の部合計	67,592	458			

(注1) 科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

(注2) <->の表記は、計算上ゼロあるいは該当数字なしを示し、<0>の表記は、単位未満を切り捨てた場合のゼロを示す。

■前年度との比較（主な増減）

(1) 事業活動収支計算書

令和4年度決算は、事業活動収入55,303百万円（前年度比1.9%増）、事業活動支出55,261百万円（前年度比5.0%増）となり、この収支差額は、42百万円の収入超過となった。経常的な収支バランスである経常収支差額は、261百万円の収入超過となり、臨時的な収支バランスの特別収支差額は、219百万円の債務超過となった。経常収支差が前年度から1,314百万円悪化、医療収入額は前年度から90百万円改善している。

(2) 資金収支計算書

資金収入の部合計は、644億円で前年対比19億

3,700万円の増加となっていますが、調整勘定等を除く実質的な収入は約14億300万円の増収、同様に実質的な資金支出の部合計は、37億5,200万円の増加となりました。

(3) 貸借対照表

資産総額は前年比4.6億円（0.7%）増加の676億円となりました。また、純資産額は前年比0.42億円（0.13%）増加の320億円となりました。

なお、詳細についてはホームページをご覧ください。<https://www.aichi-med-u.ac.jp/files/soumu/R04zen.pdf>

役員・評議員の異動

【理事】

退任 古井 景（令和5年5月31日付）
就任 富安 聡（任期：令和5年6月1日～令和7年1月27日）

【監事】

再任 林 清博（任期：令和5年5月30日～令和8年5月29日）

【評議員】

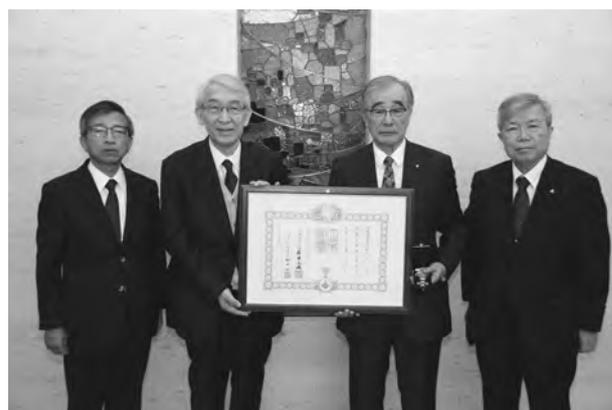
退任 古井 景（令和5年5月31日付）
村上 恒久（令和5年5月31日付）
就任 高柳 友子（任期：令和5年6月1日～令和7年1月27日）
富田 裕一（任期：令和5年6月1日～令和7年1月27日）

野口 宏名誉教授 春の叙勲の栄誉

野口宏名誉教授が、令和5年春の叙勲において瑞宝小綬章を授与され、令和5年5月12日（金）に国立劇場大劇場において伝達式、皇居宮殿において拝謁が行われました。心からお祝い申し上げます。

野口先生は昭和43年に関西医科大学医学部を卒業後、名古屋市立大学病院麻酔学講座に入局されました。昭和48年に本学へ助教授として赴任後、救命救急センター開設に尽力され、東海地区で初めての救命救急センターの専任教授に就任されました。

その後、ドクターヘリの導入や、副院長及び地域医療連携センター長として基幹災害拠点病院の指定や地域医療連携にも尽力されました。また、学外においても、多くの学会で会長を務められ、長きにわたって救急救命士の教育、災害医学の確立にも寄与されました。



祖父江理事長等とともに（右側2番目：野口名誉教授）



末松 寛之元技師長 春の叙勲の榮譽

本院感染制御部の元技師長の末松寛之さんが、令和5年春の叙勲において瑞宝双光章を授与され、令和5年5月12日（金）に国立劇場大劇場において伝達式、皇居宮殿において拝謁が行われました。心からお祝い申し上げます。

末松さんは、平成23年から本院で中央臨床検査部検査室感染検査部門・副技師長として勤務され、その後、平成25年に感染制御部の発足と同時に技師長へと昇任されると、細菌の検出率向上や院内の環境改善に貢献されました。

また、院外においても、多くの研究会等での世話人としての活動や感染症関連領域の教育にも尽力されています。令和2年に定年退職を迎えられた後、現在も本院にて臨床検査技師として業務に従事され、後進の指導にあたられています。



祖父江理事長等とともに（右側2番目：末松さん）



訃報

加藤 克己名誉教授 御逝去



令和5年6月29日（木）に、加藤克己名誉教授（内科学第1講座）がご逝去されました。享年94歳でした。

加藤先生は、昭和31年3月に名古屋大学医学部を卒業され、同大学医学部附属病院の内科学第3講座の助手を経て、昭和50年2月に本学内科学第1講座の助教授として着任後、昭和62年6月に教授へ昇任されました。

本学大学院創設への尽力及びその運営への貢献を始め、昭和58年から13年間にわたり腎センター部長を、平成5年からは3年間にわたりメディカルクリニック（現、眼科クリニックMiRAI）のクリニック長を務められ、本学の臨床教育、診療、研究の充実と向上に大きく寄与されました。

大学院担当教員資格審査委員会委員、倫理委員会委員、入学試験委員会委員、教務委員会委員、公開講座委員会委員など多数の各種委員会委員を務められるとともに、本学評議員にも就任され学校法人の運営にも貢献されました。

また、永年にわたり内科学の腎臓病、糖尿病分野の教育及び研究、特に、腎疾患における活性酸素やサイトカインの役割の研究に力を入れ、腎疾患の発症機構の解明や血液透析療法、糖尿病運動療法の確立にも貢献されました。加えて、数多の学会等において評議員や顧問を務められたことで、我が国における内科学の向上・発展に多大な貢献をされました。

ここに追悼の意を表し、謹んでご冥福をお祈り致します。

令和5年度医学部後援会定期総会開催 新会長に富安 聡氏を選出



令和5年5月28日（日）午前10時から大学本館たちばなホールにおいて、令和5年度愛知医科大学医学部後援会・医学部互助会定期総会が開催され、新会長に富安聡氏【写真】が選出されました。

総会では、まず令和4年度の事業報告及び決算報告が会計監査報告を受けて承認されました。次に、学年別に役員候補者の選出が行われ、富安会長を始めとする総勢18名の令和5年度新役員が選出されました。富安会長からは、「この1年間役員一同、後援会・互助会の役割を十分発揮できるよう邁進する所存です。今後とも本会へのご支援、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。」とのあいさつがあり、令和5年度事業計画及び予算案が原案どおり承認されて総会は終了しました。

総会終了後には、笠井謙次医学部長、鈴木耕次郎教務部長、高村祥子学生部長、河本博喜医学部事務部長からのごあいさつ及びレストラン「オレンジ」での昼食を挟み、午後1時10分から4～6学年次の保護者を対象に国試懇談会が開催されました。国試懇談会には約100名の会員に出席いただき、富安会長からのごあいさつ後、医学教育センターの早稲田勝久センター長による司会のもと、医学部国家試験対策強化委員会の内藤宗和委員長による「医師国家試験対策の現状と今後の課題」と題した講演がありました。続いて、早稲田センター長から「医学教育の現状と今後」について講演があり、本年4月から研修医として活躍されている中部国際医療センターの山羽瑠美先生、前国対委員長である春日井市民病院の永田萌々先生から前回の医師国家試験における総括と研修医としての感想などが語られました。

令和5年度看護学部父母会定期総会開催 新会長に富田 裕一氏を選出



令和5年5月20日（土）午前10時から令和5年度看護学部父母会定期総会が開催されました。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインによる開催となりました。

総会は、令和4年度会長である村上恒久氏から、「皆さまのご協力により学生支援を行い、その結果の一つとして、国家試験合格100%が達成されました。今後もご意見等をいただきながら、本会を進めていきたいと思っております。」とのごあいさつに始まり、令和4年度の事業報告及び決算報告が行われました。続いて役員改選が行われ、18名の役員が選出されるとともに、令和5年度新会長に富田裕一氏

（4学年次生ご父母）【写真】が就任され、「これからの一年、子供たちが充実した学生生活を送り、将来の目標が達成できることを第一に考え、会員の皆さま、役員、大学の方々とともに父母会を進めて参りたいと思います。」とのごあいさつがありました。その後、令和5年度事業計画及び予算について審議がなされ、原案のとおり承認されました。議事終了後には坂本真理子看護学部長から「令和4年度から今年度にかけての看護学部の取組みのご報告」があり、若杉里実教務学生部長からは「看護学部の教育目標と学生の学修の実際」についてのお話があり、今年度の定期総会は終了しました。

定期総会終了後には、引き続きオンラインによる「学年別懇談会」が開催され、ご父母と各学年次の主任・副主任による様々な意見交換が行われました。

令和5年度愛知医科大学公開講座

行ってみよう！ 聴いてみよう！ 医科大学の公開講座 ～ 知ってお得なこれからの医療 ～

本学では、教育・研究を広く社会に開放し、地域社会の教育・文化向上に寄与することを目的として、公開講座を開催しております。今年度の公開講座は、テーマを「知ってお得なこれからの医療」と題し、9月16日（土）、23日（土・祝）、30日（土）の計3回にわたって開催を致します。

受講内容等は次のとおりです。

- 受講対象者 一般市民
- 募集人数 400名（申込制）
- 受講料 無料
- 会場 大学本館たちばなホール

開催日	講演時間	テーマ及び講師
9月16日（土）	10：00～10：40	いつまでも歩行できる足を 血管外科 教授 児玉 章朗
	10：50～11：30	汗はどんなはたらきをしているの？ わきの汗が多い「腋窩多汗症」について 皮膚科 教授 大嶋雄一郎
	11：40～12：20	人々の医療と暮らしを支える看護のスペシャリスト ～ナース・プラクティショナー（診療看護師(NP)）とは～ 臨床実践看護学 准教授 黒澤 昌洋
9月23日（土・祝）	10：00～10：40	あなたの心臓、すでに心不全のサイン出ていませんか？ 循環器内科 教授 中野 雄介
	10：50～11：30	私、失敗しないので!?心臓外科医の私が今、お伝えしたいこと 心臓外科 講師 杉山 佳代
	11：40～12：20	認知症の医療について 臨床実践看護学 教授 泉 雅之
9月30日（土）	10：00～10：40	赤ちゃんのワクチンや注射の痛みを緩和する 痛い痛い飛んでけ～！ 周産期母子医療センター 教授 山田 恭聖
	10：50～11：30	喫煙とがん－「がん」は予防できる？ 呼吸器外科 教授 福井 高幸
	11：40～12：20	知ってお得ながん予防～上手にできる禁煙の話～ 成人看護学 教授 谷口 千枝

市民公開講座「沈黙の臓器肝臓のお話」開催

日本肝臓学会における「愛知県肝がん撲滅運動」の一環として、世界肝炎デー・日本肝炎デー翌日の令和5年7月29日（土）に、「沈黙の臓器『肝臓』のお話」をテーマとした市民公開講座が開催されました。

今回は初の試みとして、愛知医科大学病院（本院）とメディカルセンター（分院）の2会場で現地開催するとともに、両会場をインターネット回線を通じて、同時に双方向で開催する講座形式としました。

講座は、第1部を「肝臓のはたらきから肝がんの予防まで」と題し、医学部内科学講座（肝胆膵内科）の伊藤清顕教授が講演し、第2部を「アルコール性肝障害から肝がんへ」と題し、肝胆膵内科の坂本和賢助教が講演されました。当日は、78名（本院21名、分院44名、オンライン13名）の参加があり、講演後には、活発な質疑応答がなされました。

本院・分院での双方向での開催は、一般市民に対する肝がん撲滅運動の啓発活動をより広く周知するだけでなく、長久手市及び岡崎市の地域住民の方へ両病院の機能や役割を知っていただく貴重な機会となりました。今後も引き続き本院と分院が連携し、より幅広い広報活動を進めて参ります。



分院会場で講演する伊藤教授



本院・分院での双方向開催
(画面内：本院会場で講演する坂本助教)



本院会場へ質問する分院会場参加者



献血ご協力ありがとうございました

令和5年6月2日（金）大学本館1階南側ロビーにおいて、愛知県赤十字血液センター主催の本学職員等による団体献血が実施され、職員を始め多くの方にご協力いただきました。

せっかく献血をお申し出いただいたのに体調によりご協力いただけなかった方々は、ご自愛いただき、次回の献血の際には是非ご協力くださるようお願いいたします。

今回は令和6年1月頃に予定していますので、ご

夏の団体献血（結果）

- | | |
|-------------|----------------------|
| ・ 献血受付数 | ・ 73名 |
| ・ 献血できた方 | ・ 54名
(400mL・44名) |
| ・ 献血できなかった方 | ・ 19名 |

協力よろしく申し上げます。

令和5年度愛知医科大学SDへの取り組み

本学では、「SD（スタッフディベロップメント）：教職員に研修の機会を提供する等の取り組み」を積極的に行っております。

令和5年度新規採用事務職員研修実施

令和5年4月3日（月）から6日（木）にかけて、新規採用事務職員10名を対象とした事務職員研修が実施されました。研修では、大学の施設見学やコミュニケーションワークを通じて同期同士の仲を深めるとともに、電話対応や文書事務、経理システムなど業務遂行に必要なスキルを学びました。また、内定期間中からグループで取り組んだ「愛知医科大学及び愛知医科大学病院の特徴は？」、「あなたは愛知医科大学の職員として、どんな大学及び病院にしていきたいですか？」という課題に対する発表が所属する管理職の前で行われました。

また、4月7日（金）から6月16日（金）までの毎週金曜日に行われた新規採用事務職員向けの事務組織研修では、各部署の先輩職員が講師として自部署について解説し、これから関わっていく事務組織一つひとつについて詳しく学びました。

研修受講後のアンケートでは、「ビジネスメールや電話対応など研修で学んだことを実践で活かしていきたい。」「課題発表では他のグループの発表からも学ぶことがあった。」といった感想がありました。



新規採用事務職員の皆さん

なお、毎年4月に行われる新規採用職員研修では、事務職員・看護職員・医療職員が合同でビジネスマナーや本学における基礎知識等についての研修を受講しますが、昨年度同様に新型コロナウイルス感染症感染拡大を防止する観点から、ホームページ上での資料閲覧とアンケート回答による研修受講となりました。

令和5年度新規採用職員ビジネスマナー研修実施

令和5年4月20日（木）及び21日（金）大学本館たちばなホールにおいて、令和5年度新規採用職員を対象とした、看護職員・医療職員・事務職員合同のビジネスマナー研修が実施され、196名が参加しました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、日程を2日間（各日同内容）とし、各日の受講人数を全体の半分に分けたため、出席者が適切な距離を保ったままペアワークを行うことができ、コロナ禍においても実践的な研修が実現できました。

研修では、社会人としての基本動作や言葉遣い・敬語などビジネスマナーの基本を習得する内容で、ロールプレイングによる実践的な練習や全体での意見共有を行いました。受講者からは、「元気の良いあいさつや相手に敬意が伝わるような丁寧な対応を



研修の様子

心がけたい。」「実践的な練習やペアワークがあり、楽しみながら研修を受講できた。」といった感想がありました。

令和4年度新規採用職員1年フォロー研修実施

令和5年5月17日（水）午後1時15分から午後4時30分まで大学本館711特別講義室において、事務部門の令和4年度新規採用事務職員を対象に、配属後1年を一つの区切りとしたフォロー研修が実施されました。

今回の1年フォロー研修は、これまで数々の研修において受講者としての立場しか経験したことがなかった入職2年目となる自身が、初めて講師として演台に立ち、プレゼンテーション発表を行うという形式で行われました。令和5年2月に「令和5年度入職の新規採用事務職員に対し、2年目の先輩として伝えたいこと、教えてあげたいことを発表する」という課題が通知され、約3か月の準備期間が設けられました。

研修当日は、令和5年度新規採用事務職員、各部署における上長及び先輩職員など約25名が聴講する中、各自準備したスライドを用いた発表が行われました。同年度に採用された職員だけでなく、上司や後輩職員に囲まれ、温かな雰囲気での研修が始まり、プレゼンテーションでは、各自が自己紹介や自身の仕事を紹介し、1年の振り返りについて自信を持っ



入職2年目の皆さん

て個性溢れる発表を行うことができました。

プレゼンテーションに関して発表者は、「新規採用職員の立場に立って」、「スライドの文字数や情報量が多くならないように」など講師側の気遣いとその労力への気づきがあり、受講者からは、「入職からの1年間を振り返る機会となった。」、「今回の発表を通じて他の同期の業務内容をより理解することができた。」といったポジティブな感想がありました。

OJT研修「新人・後輩指導の基本スキル習得」実施

令和5年6月22日（木）大学本館701会議室において、事務職員を対象としたOJT（On the Job Training）研修「新人・後輩指導の基本スキル習得」が実施され、11名の事務職員が参加しました。

【写真】

本研修は、令和5年度採用職員のOJT担当者に加え、OJTの経験はあるが改めて基本を振り返りたい職員やOJTは未経験だが今後のために知識を習得したい職員向けに実施されました。

参加者を3～4人の四つのグループに分け、講義及びグループワークの形式で新人指導のコツを学びました。具体的なシチュエーションを想定したグループワークを実施し、より実践に近い状況での指導方法や注意点が共有されました。

受講者からは、「自分の価値観ではなく、後輩と自分では価値観が異なることを念頭においてコミュニケーションをとること、また、曖昧な指示ではな



く、仕事の意味や期日を言語化し、具体的に伝えることを意識していきたい。」、「OJT指導者としての役割や心構えを整理することができたので、報連相ができる環境づくりや後輩と話す時間を定期的に設け、一緒に成長していきたい。」などの感想がありました。

令和5年度全学コミュニケーション研修実施 ～エトス・パトス・ロゴスで伝える力を強化する～

令和5年7月12日（水）、27日（木）、8月1日（火）、2日（水）の4日間にわたり、大学本館たちばなホールにおいて、全教職員を対象とした全学コミュニケーション研修が実施され、341名の教職員が参加しました。【写真】

本研修は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ソーシャルディスタンスを保ちつつ、ペアワークによる実践演習を取り入れて実施されました。

研修では、「エトス（＝信頼性）」、「パトス（＝共感性）」、「ロゴス（＝論理性）」の三つの要素を活用したコミュニケーションについて学びました。

研修後のアンケートでは、「自分のコミュニケーションの特徴や、得意不得意なところを理解することで、患者さんへの接し方を改めて考えるきっかけ



になった。」「少しの心がけで相手が聴きやすい・動きやすいコミュニケーションが取れるようになって感じたので、エトス・パトス・ロゴスを意識して話したいと思った。」などの意見がありました。

【高大連携事業】

総合学術情報センター図書館の利用

総合学術情報センター（図書館部門）では、愛知県立長久手高等学校と愛知医科大学との高大連携事業の一環として、令和元年度から、長久手高等学校生徒及び教員のための各種サービスを提供しています。学術資料の閲覧・複写・貸出、閲覧席の利用のほか、医療系データベースの検索、電子ブック・電子ジャーナルを閲覧することができます。

令和5年4月26日（水）には、医療看護コース第2学年の生徒20名を対象に、本学職員（司書）によ

る図書館利用ガイダンスが実施されました。館内を巡りながら、資料の探し方や施設の利用方法など、入門的な説明が行われました。

令和元年度の入館者数は23名でしたが、令和4年度には231名まで増加し、長久手高等学校の生徒が図書館で学習を行う光景はすっかり定着しました。今年度も図書館を積極的に活用していただくことを期待しています。

教授就任インタビュー



内科学講座（肝胆膵内科）・教授

いとう きよあき
伊藤 清顕

— 教授就任に当たっての 抱負を聞かせてください。—

令和5年7月1日付で医学部内科学講座（肝胆膵内科）の教授・部長を拝命致しました。私は、元々名古屋市出身ですが、平成2年に東京にあります昭和大学医学部に入学し、平成8年に卒業しました。その後、名古屋市立大学病院で初期研修を行い、中京病院、国立国際医療研究センター肝炎・免疫研究センター、名古屋市立大学大学院、米国ブラウン大学留学を経て愛知医科大学に赴任しました。愛知医科大学の教授の中で、私のように国公立大学出身でも本学出身でもない存在はかなり稀だと思います。私を選んでいただいたということは、本学が多様性（ダイバーシティ）を推進していこうということも理由の一つだと思います。近年、世界的にダイバーシティの推進が盛んに言われるようになってきました。これは、男女差別の問題だけでなく、人種や国籍、年齢、宗教などの違いによる差別を無くそうという取り組みです。学歴もその一つです。

では、なぜ世界的にダイバーシティの推進が求められているのでしょうか。これは、単一な集団、単一な意見しか出ない集団と比較して、新しいアイデアが出やすい、そして豊富な人材が集まりやすいというメリットがあるからです。私が選ばれたということは、既存の考え方に左右されない多様な意見、新しいアイデアが求められているのだと思います。このような期待に応えられるように、教育、臨床、研究全ての面で常に工夫することを忘れず、本学がどうすれば更に良くなり発展できるかということを一生涯懸命に考え、努力を続けていきたいと思えます。皆さまにご指導、ご協力をいただけますと有り難く思います。どうぞ宜しくお願い致します。

— 現在の研究分野に進まれた きっかけを教えてください。—

私が、消化器内科、特に、肝胆膵内科領域に進むことになったきっかけは、名古屋市立大学でパワーのある先輩方に興味を持ったこと、そして、そういった先輩方に消化器内科へ進むことを勧められたこ

とでした。私は、医学部卒業後に内科へ進むことは決めていたものの、消化器内科に進むことはあまり考えていませんでした。自分でもただ流されただけのように思っていたのですが、今考えてみると、私がこの分野に向いていると思って誘っていただいたように思います。消化器内科を一生懸命にやっているうちに、できるどころ得意なところがはっきりしてきて肝臓の専門家になりました。肝臓は、様々な胆汁酸の機能や、脳や腸との関係など、まだまだ未知の部分が多く、その研究はワクワクするものです。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

学生の方々に伝えたいことは、医学部・看護学部に入學した今こそ、またとない人生のリセットのチャンスだということです。皆、大学に入って初めて医学を学ぶわけです。高校までの学力と関係なく横一線に並びます。いくら良い成績で入学したとしても、医学の勉強を怠れば成績は上がりません。また、下位で入学したとしても、そして、例え第一志望の大学ではなかったとしても、医学を一生懸命勉強すれば、その後優れた医師、看護師、研究者になることが可能です。私自身、高校のときはサッカーばかりして褒められた成績ではありませんでした。そして、入学した大学も希望したところではありませんでした。しかし、医学部に入ってから心を入れ替え、6年間一生懸命に勉強（医学が好きなのですね）しました。すると、下位で入学したにもかかわらず、3年生くらいからは常に学年のトップクラスの成績となりました。

もう一つ言いたいことは、医学部、看護学部に入ってからほとんどの勉強は、皆さんが医師、看護師になってからの仕事に直結するということです。その勉強は皆さん自身を助け、生活の糧になるのです。そう思うと勉強のやる気がでませんか？本学には教育熱心な教官が多く、日々皆で良い教育は何かを考えています。そして、医心館や新しくなったオレンジなど勉強できる環境が揃っています。今からでも遅くはありません。是非、全力で医学の勉強を進めてください。この大学は一生懸命やる人をちゃんと評価してくれます。将来、皆さんと一緒に仕事や研究ができることを楽しみにしています。



皆さまから就任祝いでいただいた多くのお花
誠にありがとうございました



外科学講座（血管外科）・教授

こだま あきお
児玉 章朗

— 教授就任に当たっての
抱負を聞かせてください。—

血管外科は、心臓、頭蓋内を除く、全身の血管を治療対象としています。血管外科単独での講座は数少ない中、本学は古くから血管外科単独講座として地域医療に携わって参りました。疾患及びその重症度によって保存的治療を行うのはもちろんですが、より低侵襲な手術方法として血管内治療が発展して参りました。本診療科では外科的治療、血管内治療及びこれらを組み合わせたハイブリッド治療も行っており、非常にスペシャリティの高い分野の一つと言えます。

大動脈瘤治療として、ステントグラフト治療と人工血管置換術があります。前者は解剖学的制限がありますが、より低侵襲なカテーテル治療であるのに対し、後者は耐久性のある治療です。他診療科と協力しながらステントグラフト治療を行っているのが特長の一つです。

また、下肢閉塞性動脈疾患の血行再建においても、バイパス術と血管内治療があります。特に、虚血性安静時痛や潰瘍・壊疽といった患者さんでは、早期血行再建が必要とされます。以前から足部創傷管理の経験が多いことが特長の一つだと思います。

これまでの私自身の臨床及び研究の経験と本学の特長を活かしながら、愛知医科大学血管外科が発展するよう、努力していく所存です。

— 現在の研究分野に進まれた
きっかけを教えてください。—

学生時代はなんとなく外科系に進みたいと考えていたと思います。研修医になりgeneralに患者さんを診たいと考え、外科・心臓外科に惹かれました。最後は、先輩に誘われ外科入局を決め、卒後9年間は一般外科で修練しました。ある時、腹部大動脈瘤十二指腸S状結腸瘻という緊急性及び難易度の高い手術を血管外科の先生が執刀された印象が強く、大学帰局に当たり血管外科を選択しました。その後、小倉記念病院・名古屋大学在籍時は、大動脈瘤における外科治療、ステントグラフト治療の他に内臓動脈瘤や下肢遠位バイパス術を多く執刀しました。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

新型コロナウイルス感染症の流行により、これまで学生生活がかなり制限されてきたことと思います。まずは、学生生活を楽しんでいただきたいと思っています。しかし、数年後には医療職に就かれることになるでしょう。臨床職を目指す上では、患者さん及びご家族への共感が必要となります。普段、元気に社会生活を送っている方でも、新型コロナウイルス感染症同様、病気は突然ふりかかってくる。PassionとCompassionを持ち、医療職に就いたあかつきには、プロフェッショナルリズムとしての知識、技術の習得に研鑽してください。



オフショット

英国の Pub にて（バーミンガム大学血管外科のBradbury教授、旭川医大血管外科の東教授、名古屋大学血管外科の古森前教授らとともに）

令和5年度オープンキャンパス開催

令和5年度オープンキャンパスは、令和5年7月29日（土）に医学部・看護学部合同、30日（日）に医学部単独で、いずれも来場型にて開催されました。

新型コロナウイルス感染症の影響で前年度までは制限を設けての開催でしたが、今年度は4年振りに入場制限を設けることなく開催され、医学部は両日併せて393組865名、看護学部は初日のみで267組500名と大変多くの参加者にお越しいただき、活気のあるオープンキャンパスとなりました。なお、看護学部2日目は8月11日（金・祝）に開催を予定しています。

今年度から「ここがわたしの、夢の入り口。」というコンセプトを設定し、大学本館を中心とした装飾を一新しました。今年度のコンセプトは、正門という大学を象徴するモチーフから発想し、将来の可能性を拓く前向きなイメージとオープンキャンパスのデザインとを連動させて表現したものとなっております。このコンセプトのとおり、来場者からはキャンパスや教職員・在学生などの大学の明るく活気のある雰囲気を直接見ることができ、オープンキャンパスに来なければ知ることのできない様々な体験ができたと多くの方々からご好評をいただきました。

また、「オープンキャンパス特設サイト」のデザインや一部掲載動画を一新し、大学・学部紹介動画や施設紹介、ドクターヘリ紹介など遠方等で当日来場することができない受験生に対しても本学の魅力を発信しています。



コンセプトデザイン

◆ 医学部

- ☆ 学部長あいさつ・入試説明
- ☆ 教職員・学生による個別相談会
- ☆ 模擬授業～医学部の講義を体感してみよう～
- ☆ 脳の標本観察 ☆ 実習体験
- ☆ 愛知医科大学医学部入試過去問解説講座

◆ 看護学部

- ☆ 学部長あいさつ・学部紹介
- ☆ 在学生によるキャンパスツアー
- ☆ 体験演習 ☆ 模擬講義
- ☆ 大学院の講義・演習
- ☆ フライトナースによる講演会
- ☆ 在学生・教職員との個別相談会

◆ 両学部共通

- ☆ 学食体験 ☆ ドクターヘリ見学



オープンキャンパス
～ここがわたしの、夢の入り口。～



シミュレーターを使用した
ACSISによる実習体験



脳の標本観察



体験演習

【参加者の皆さんからの感想】

- ・ 愛知医科大学が地域を担う医療の役割や医学教育の方針などがよく理解できました。入試説明では短い時間で変更点、各試験の流れなど複雑な入試形態を分かりやすくまとめてお話しいただき、親子で理解が深まりました。
- ・ 先生方や学生の方がとても親切で「入学したい」と強く思いました。模擬講義や脳の標本観察を体験し、ますます貴学で学びたいと思いました。
- ・ 保健師として働きたいという夢があり、保健師課程があるこの大学のオープンキャンパスに行って参考になりました。すぐ近くに愛知医科大学病院やドクターヘリがあるのも、臨場感があって、より目指したいと思えるきっかけになりました。
- ・ 設備などが充実していて、国家試験に向けた勉強などができると思いました。優しい学生さんばかりで愛知医科大学に進学したいという気持ちが強くなりました。

国家試験日程のお知らせ

◆第118回医師国家試験

- ・試験日 令和6年2月3日(土)・4日(日)
- ・合格発表 令和6年3月15日(金)

◆第110回保健師国家試験

- ・試験日 令和6年2月9日(金)
- ・合格発表 令和6年3月22日(金)

◆第113回看護師国家試験

- ・試験日 令和6年2月11日(日・祝)
- ・合格発表 令和6年3月22日(金)

痛み医療開発寄附講座設置

本学では、教育・研究の進展及び充実に資することを目的とし、企業又は個人等からの寄附金を受入れ、これを有効に活用して「寄附講座」を設置し、教育研究活動を行っております。

令和5年6月1日付けで医学部に新たに「痛み医療開発寄附講座(英文名: Department of Advanced Pain Medicine)」を設置しました。寄附講座の概要は次のとおりです。

1 設置目的

【概要】

本講座では新規低侵襲医療機器や遠隔診断治療、Doctor to Doctorネットワークシステムの開発と事業化により、高齢者を中心に地域の痛みを抱える患者のQOL向上を目指します。また、疼痛関連医療の教育環境整備に取り組むと同時に痛みだけでなく多角的な予防医療の開発にも挑みます。

【活動・研究内容】

疼痛緩和外科・いたみセンターと連携して難治性の疼痛疾患である神経障害性疼痛や手術後残存痛などに対して次世代型のパルス高周波治療器の開発を行います。開発した機器をDoctor to Doctorネットワークシステムと移動式車両などに実装する取り組みを行うとともに、インターネットなどを介して患者・医療者に対する慢性疼痛の教育システムの構築を進めていきます。

【教育方針】

長く続く痛みの苦しみに対して何ができるのか? 生物学的な面および心理社会的な面から課題を抽出し、どのような対策ができるのかについて医療者・医

学生に教育を行うと同時に患者さんに対しても理解を広めていきます。また、新規低侵襲医療機器や遠隔診断治療のコンセプトの理解も促進していきます。

【メッセージ】

みんなでみんなの「命」をみる温かい医療クリエーションの場を作る、という中心の思いを大切にしていきたいと思っております。

2 設置期間

令和5年6月1日から令和7年5月31日まで
(2年間)

3 職員等

教授 福井 聖

4 寄附者名

- ・株式会社アジアス
- ・インタークロス株式会社
- ・川崎重工業株式会社
- ・株式会社ジェネラス
- ・セイエイ・エル・サンテホールディング株式会社
- ・株式会社セルパワー
- ・株式会社トップ

7号館（医心館）セミナー室の増設工事実施

7号館（医心館）の2階には、医師国家試験の受験を控えた医学部6学年次生のグループ学習用セミナー室が整備されていますが、快適に学修するために十分な広さを確保する必要があったため、セミナー室が増設されることとなりました。

増設に当たっては二つのハードルがありました。一つ目は、同フロア内の名城大学薬学部サテライトセミナー室の移転です。移転については、名城大学様のご理解とご協力により、計画どおり進めることができましたことに感謝申し上げます。

二つ目のハードルは資金面です。移転先の改修工事を始め、増設工事費用が高額となりましたが、セミナー室は、医学部の学生にとって大変重要な場所であることから、この事業を本学創立50周年記念事業の一環として実施することとし、事業にご賛同いただいた医学部後援会、医学部同窓会愛橋会から多額のご寄附をいただきました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

工事は1階が令和5年2月から、2階が医師国家試験終了後の3月中旬から開始され、令和5年7月に完了しました。1階部分は名城大学薬学部サテライトセミナー室と多目的ホールが改修され、多目的



新設されたセミナー室

ホールは以前の135m²から170m²に増床されました。更に、多目的ホールは用途に分けて3分割できるようになり利用度が上がったため、これを契機として医学部同窓会愛橋会のネーミングライツとして名称を変え、「愛橋スクエア多目的ホール」として生まれ変わることとなりました。2階部分は医学部学生の専用フロアとなり、セミナー室が3部屋（約100m²）増設されたことで必要な学修環境が整備されました。次は、医師国家試験合格という大きなハードルを乗り越えてもらうべく、学生の皆さんがこのセミナー室で、一層勉学に励んでくれることを願います。

令和5年度医学部成績優秀者表彰

本学医学部では、成績が各学年上位の者で、出席状況及び勉学態度等が他の模範となる学生に対して、本人の学習意欲の高揚を更に図るため、顕彰制度を設け表彰しています。

今年度の表彰式は、令和5年5月9日（火）午後5時30分から、大学本館7階711特別講義室において、令和4年度成績が優秀であった医学部2～6学年次生の学生計25名を対象に行われました。【写真】

表彰式では、笠井謙次医学部長から表彰状及び記念品が授与され、出席した学生に対し、称揚と更なる期待の言葉をかけられました。



医学部優秀者表彰

令和5年5月12日（金）から14日（日）までの間に開催された「第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会」の学生ポスターセッションにおいて、医学部6学年次生の肥後夏月さんが最優秀賞を、医学部6学年次生の高橋里空さん、平嶋大暉さん、本美朋華さん、医学部5学年次生の富田明日香さんが、優秀賞をそれぞれ受賞されました。

本学では、他の模範となる活躍をした学生を表彰する顕彰制度を設けており、令和5年7月10日（月）、8月4日（金）に、大学本館役員会議室において表彰式が行われました。表彰式では、5名の医学部学生に対して、祖父江元 学長から表彰状と記念品が授与されました。



祖父江学長等と記念撮影

大学院医学研究科学生表彰（優秀論文賞）

大学院医学研究科では、学生の研究活動の活性化を図るため、学生が顕著な業績を挙げた場合等の表彰制度を設けています。

この度、令和4年度に修了した大学院生のうち、各研究指導教授から学位論文について推薦があった中、選考の結果、内科学講座（消化管内科）の春日井邦夫教授から推薦された、杉村明佳音氏（臨床医学系内科学専攻）及び解剖学講座の内藤宗和教授から推薦された、鈴木千春氏（基礎医学系解剖学専攻）の2名が「優秀論文賞」として表彰されることとなりました。

杉村氏は、子育てをしながら研究に励み筆頭論文を2本完成させ、3年で大学院の早期修了を成し遂げました。CD47-SIRPA(signal regulatory protein- α)シグナル経路はマクロファージチェックポイントとして知られており、癌の免疫逃避に関係すると考えられています。今回の研究では、大腸癌細胞におけるCD47、SIRPAなどの発現の免疫組織学的解析により大腸癌患者の予後因子が明らかとなり、CD47-SIRPA経路が新たな大腸癌の治療ターゲットとなる可能性が示唆され、非常に評価の高い雑誌に掲載



表彰学生（左から杉村氏及び鈴木氏）

されました。本院消化管内科の医員助教として、今後の研究の発展も期待されます。

鈴木氏は、臓器移植医療においてCOとO₂の混合ガスを用いた高圧気相保存法という新しい臓器保存法のメカニズムを解明し、有効性を示すことで心臓移植への臨床応用の可能性が示唆されました。この過程を非常に意欲的に取り組み、4年間で論文を完成させ、非常に評価の高い雑誌に掲載されました。

今後も、表彰される学生が続くことを期待します。

令和5年度医学部解剖慰霊祭挙行

令和5年5月15日（月）覚王山日泰寺において医学部解剖慰霊祭が厳かに執り行われました。新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことに伴い、今年は4年ぶりに参列者を招待する形での開催となり、ご遺族を始め、不老会、教職員及び医学部2学年次生など関係者約220名が出席しました。令和4年度中に系統解剖と病理解剖へご遺体を供せられた68柱が新たに合祀され、総数5,354柱の御霊に対し、参列者一同はご冥福をお祈り致しました。

祭儀では、笠井謙次医学部長及び公益財団法人不老会の久野格彦理事長から慰霊の辞が述べられ、続いて学生代表の木谷明日香さんが「医師として命を助けるため、医学の知識・技術を十分に身につけていくことに精進し、お体を提供してくださった方の尊いご意思に恩返しをしたい。」と礼辞を奉読し、御霊に深い感謝と尊崇の念を捧げました。

焼香の段では、笠井医学部長、解剖学講座代表の内藤宗和教授、病理学講座代表の大西紘二講師及び



覚王山日泰寺での解剖慰霊祭の様子

学生代表の森内理子さんが順番に哀悼の意を表し、続いて参列者一人ひとりから霊前にて焼香が行われました。

最後に、笠井医学部長から参加者に対し謝辞が述べられ、式は滞りなく終了し、参列者は学生が見送る中で帰路につかれました。

愛知医科大学不老会会員の集い開催

令和5年6月10日（土）午後2時から大学本館たちばなホールにおいて、愛知医科大学不老会会員の集いが開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響により近年開催が延期されてきましたが、今年度は不老会の役員、本学部会役員、一般会員、教職員及び医学部2学年次生の約200名が出席し、実に4年ぶりの開催となりました。

会員の集いは、成願された方々への黙祷から始まり、笠井謙次医学部長、不老会愛知医科大学部会の藤内美也子部会長及び公益財団法人不老会の久野格彦理事長からごあいさつをいただきました。次に、講演発表として学生代表の林美佑さんから、「大切なお体を献体してくださった故人の方、献体に同意してくださったご家族に心より感謝申し上げますとともに、故人のお体を決して無駄にしないよう精一杯学修に励み、立派な医師になれるよう精進したいと思います。」と感謝の想いを込めた体験発表がありました。その後、医学部事務部庶務課から献体実績



講演発表を行う林さん

の報告があり、解剖学講座の内藤宗和教授からは講座教員の紹介を交えた講演が行われました。また、教員と学生が壇上にて会員の皆さまの様々な質問を受けることで、活発な意見交換が行われました。

残念ながら、感染症対策として恒例であった不老会会員と学生との昼食懇談会を行うことはできませんでしたが、学生と教職員が見送る中、参加者は次回開催の期待を胸に帰途につかれました。

令和5年度医学部FD開催

本年度1回目の医学部FD（ファカルティ・ディベロップメント）は、令和5年5月11日（木）に「医学教育分野別評価の年次報告書作成」をテーマとして開催されました。各領域の担当の教員を対象に、総勢50名の先生方が参加されました。【写真】

始めに、祖父江元 理事長・学長、笠井謙次医学部長からあいさつがあり、続いて、医学教育モデル・コア・カリキュラムや国家試験出題基準が改訂されたこと、また3月に開催されたJACMEのシンポジウムの内容が紹介されました。その後、領域毎に分かれ、年次報告書作成のための議論が活発に行われ、最後に、2回目の受審（令和8年）に向けて、今後すべきことを参加者全員で共有しました。

また、令和5年6月14日（水）、MECの塩澤昌英先生をお迎えし、「第117回医師国家試験の傾向分析」をテーマとした講演会が第2回医学部FDとして開催され、対面・Web併せて123名の先生方が参加されました。

塩澤先生からは、本学の国家試験対策が、最近の国家試験出題傾向に合致しているかなどについてお話しいただきました。続いて、本学特命教育教授の伴信太郎先生から「国家試験の動向」をテーマに、出題基準の変更、今後の国家試験のCBT化、国家試験への実技試験の導入についてお話しいただきま



講演する塩澤先生



講演する伴特命教育教授

した。

今後、様々な新しいことが国家試験に導入される可能性があります。臨床実習を充実させることの大切さを改めて認識したFDとなりました。

令和5年度第1回大学院医学研究科FD開催

本学では、平成28年度から大学院医学研究科FD（ファカルティ・ディベロップメント）を毎年開催しており、令和5年6月16日（金）午後5時30分から大学本館301講義室において、今年度の第1回目が開催されました。

今回は、講師として北海道大学大学院薬学研究院医療薬学部門医療薬学分野薬理学研究室の南雅文教授をお招きし、「行動薬理学・電気生理学を使った

疼痛・情動研究の進め方」をテーマとしてご講演いただきました。

当日は、大学院医学研究科の多くの担当教員が参加し、今後の研究・教育の質の向上に繋がるものとなりました。医学研究科では、引き続きFDを開催することで、更に授業内容・方法を改善し、向上させて参ります。

熱中症予防講演会開催

令和5年6月23日（金）午後5時40分から大学本館たちばなホールにおいて、クラブに加入している医学部及び看護学部の学生を対象に、救急集中治療医学講座の寺島嗣明講師による熱中症予防講演会が開催されました。

この講演会は、8月上旬から開催される西日本医科学生総合体育大会に向け練習量が多くなることや、夏休み期間は練習時間帯が夜から日中に移行するなど、7月から8月にかけては熱中症に注意する必要があることから、熱中症予防について再認識してもらうことを目的に開催しています。

寺島講師からは、熱中症は多臓器不全、中枢神経障害を引き起こし、死に直結するが、早期認識、早期治療で重症化を防ぐことができること、予防が大切であり、危険を避ける為にも暑さ指数（WBGT）を確認すること等説明をしていただきました。

両学部約300名の学生が参加し、講演会後には簡易テストを行い、熱中症に関する知識の確認を行いました。参加した学生からは、「熱中症が死に直結することが分かった。蛋白質変性の画像はインパクトがあり分かりやすかった。」、「部活をしながら楽しく夏を超えるために、水分をとることや、熱中症



講演する寺島講師



初期症状に気をつけようと思う。」、「西医体に向けて、熱中症に関する知識を知れて良かったです。」といった感想がありました。

令和5年度Post-CC OSCE実施

令和5年7月15日（土）にPost-CC OSCE（臨床実習後OSCE）が実施されました。これは、医学生が診療参加型臨床実習において十分な臨床能力を修得できているかを測定する試験であり、出題内容としては共用試験実施評価機構の課題（機構課題）3題と各大学独自の課題3題で構成されています。

機構課題は、1課題16分間（医療面接と身体診察12分間、情報整理と指導医への報告4分間）という限られた時間の中で、医療面接と身体診察を行い、鑑別疾患を思い浮かべて、指導医へ報告するという形式です。

試験に臨んだ学生のほとんどが臨床推論、プレゼンテーションまでしっかり行うことができおり、クリニカルクラクシップA・Bに対する診療科の先生方の指導の成果が伺えました。今回のPost-CC OSCEの結果を各科で共有していただき、更に今後のクリニカルクラクシップの充実に活かしていただきたいと思います。

また、模擬患者さんを始め、多くの職員の方々に運営スタッフとして携わっていただき、改めて皆さまのご協力に感謝致します。

令和5年度看護学部キャンドルセレモニー挙行



令和5年6月10日（土）午前10時から大学本館ちばなホールにおいて、「令和5年度キャンドルセレモニー」が2学年次生を対象に挙行されました。昨年度までは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学生のみのお出席となっていました。今年度は4年ぶりに、本学関係者及び保護者を招待しての開催となりました。

キャンドルセレモニーは、ナイチンゲールの精神を受け継ぎ、看護職者となるための決意を新たにする場として、2学年次生の実行委員が中心となって企画し、学生たちが一致団結して運営しているものです。

始めに、祖父江元 学長から、「様々な背景を持つ患者さんの理解とサインを見逃さないこと、チーム医療への参画、そして、経験豊富な先輩たちから学ぶことは、自己成長やスキルの向上へと繋げることができます。皆さんには、これらの姿勢を胸に、日々の努力と成長を続けていってほしいと思います。ぜひ頑張ってください。」との式辞が述べられました。

続いて、坂本真理子看護学部長から、「看護学の学修には多くの出会いと協力が必要であり、実習先の医療機関、患者さんや先輩たちのサポートがあることを自覚してください。また看護の現場では、臨床や地域での実践を通じて患者さんの反応を観察し、適切な看護を提供する能力が求められます。更に、自己学習や自律も重要であり、将来出会う多くの方々への尊敬と丁寧な関わりを持ちながら努力を重ねていくことが大切です。皆さんの成長を支える

要素が結びつき、奥深く魅力的な看護の道を共に進んで参りましょう。」とメッセージが贈られました。

その後、学生代表8名がナイチンゲール像の灯火を燭台に受け継ぎ、「私の目指す看護師像」を発表した後、一斉に全ての学生へ灯火を引き継ぎました。続いて、学生実行委員が作成した2学年次生全員を含む「私の目指す看護師像」の動画が放映され、参加者たちは自身の看護師像についての思いを共有しました。

最後に、学生代表2名が壇上に上がり、「誓いの言葉」を述べ、厳粛な雰囲気の中で、キャンドルセレモニーを終了しました。

この式典を通じて、これから本格的に始まる看護学の修得に一層力を注ぎ、高度な知識・技術を兼ね備えた心豊かな看護職者へと成長されることを期待しています。



式辞を述べる祖父江学長



誓いの言葉を述べる学生

看護学部同窓会キャッチコピーの決定 「絆をつなぐ，未来へつなぐ。」

このたび、看護学部同窓会会員にとって末永く親しまれ、広く認知してもらうことを目的とした同窓会キャッチコピーを会員の皆さまに募集したところ、多くの方からの応募があり、令和5年6月17日（土）午前10時から看護学部棟N201講義室にて開催された看護学部同窓会定期総会において、新たなキャッチコピー「絆をつなぐ，未来へつなぐ。」が選考の上、決定されました。

このキャッチコピーは、同窓生たちの繋がりを象徴し、未来への繋がりを提供していくことを表現しています。また、卒業生と在学生在が互いに繋がり、長く続く絆を築く場である同窓会が、今後より一層メンバー同士の絆を深め、未来への繋がりを育む場となることを目指すという思いが込められています。

【決定までの経緯等】

- ・募集期間：令和5年3月24日～5月26日
- ・応募件数：40件
- ・選考方法：理事により6件の候補を選定し、その後投票を行い、定期総会において決定。
- ・投票期間：令和5年6月5日～6月9日
- ・投票件数：84件

なお、看護学部同窓会のホームページ (<https://amukandou.jp/>) は令和5年度にリニューアルされました。様々な情報を発信していますので、是非ご覧ください。



看護学部同窓会ホームページ及びQRコード

看護連携型ユニフィケーション推進事業 看護学部授業「看護管理論」実施

令和3年度から開始された看護連携型ユニフィケーション推進事業の一環として、令和5年4月27日（木）に看護学部4学年次生を対象とした看護管理論の授業が行われました。

この授業では、チーム医療、組織マネジメント、病院の医療安全体制の理解を目標として、病院での多職種へのインタビュー及びグループワークが実施されました。臨床指導者20名がファシリテーターとして参加することで、学生は話しやすい雰囲気の中でインタビューを行うことができました。また、臨床での実際を知ることによって学生からは「講義で学んだチーム医療、医療安全への理解が深まり、視

野が広がった。」等の感想がありました。臨床指導者のアドバイスを受けながら、実際の臨床ならではの視点を捉え、内発的動機付けを高めることができる体験となりました。コロナ禍で臨地実習が十分に行えず、病棟以外を知ることが少ない学年次であったことから、この授業を通して新たな知見を得ることができました。

一方、臨床指導者は、学生の学びを理解する機会となり、指導力の向上に繋がりました。今後も看護学部と看護部が共同して継続教育の充実に焦点を当てた教育計画を実施していきます。



臨床工学部でのインタビューの様子



グループワーク及び発表の準備



発表の様子

看護学部新カリキュラム 形態機能学実習実施

看護学部形態機能学実習は、令和4年度にスタートした新カリキュラムによって令和5年度から新たに設けられた科目です。2学年次生を対象に4月から5月にかけて実施され、医学部解剖学講座と看護学部教員が協働して授業を行っています。

実習目的は、「人体の構造及び機能を看護の視点から理解し、そのことが根拠のある看護を実践する基盤となることを学び、看護専門職を目指す学生としての自覚を持ち、看護の倫理と人間の尊厳についての理解を深める。」ことであり、具体的には、骨学実習、組織学実習、肉眼解剖実習を実施することで、ご献体を通して人体の構造及び機能をフィジカルアセスメント及び日常生活行動の視点を持って確認していきます。学生は、学習発表会にて人体の構造及び機能がどのように看護実践を行う根拠になるのかを討議し、フィジカルアセスメントや看護技術に結び付けて学ぶことができました。また、ご献体をしていただいた方々にご家族に敬意を持ち、少しでも多くのことを学ぼうとする学生たちの姿勢が印



実習に臨む学生たち



学習発表会の様子

象的でした。

看護学部において、骨学実習、組織学実習、肉眼解剖実習を系統的に行うことは全国的に珍しく、今後は実習の成果を公表していく予定です。

タイ王国マハサラカム大学短期留学生来学

令和5年7月24日（月）から27日（木）の日程でタイ王国マハサラカム大学（MSU）から、看護学部長Jarowan先生を含む教員5名と看護学生6名、大学院生2名の計13名が来学されました。令和2年3月にCOVID-19感染拡大により短期留学プログラムを中止して以来、3年ぶり3回目の留学生受け入れとなります。

各部署に多大なご協力をいただき、学内施設や大学病院の見学が実施されました。大学病院の見学では、タイ王国と日本の医療システムの相違について興味をもたれ、最新の医療機器やドクターヘリについてなど多くの質問がなされました。MSUの看護学生と大学院生は、本学看護学研究科診療看護師コースの大学院生とともにシミュレーション演習を行い、看護学部3学年次生の成人看護学実習のシャドウイングに参加しました。同じ看護学生として国を越えて看護について共に学ぶ機会を持ったことは、双方の学生にとって、とても良い刺激となりました。



シミュレーション演習の様子

また、教員を対象としたリサーチフォーラムが開催され、お互いの研究や教育に関する取り組みについて発表が行われました。初めての取り組みでしたが、質疑応答では研究方法や同じ研究領域の課題について意見交換がなされるなど、将来的な共同研究に向けた有意義な機会となりました。

3日目には、高齢者介護施設や地域包括支援センターなど高齢者関連施設の見学が行われました。タイ王国では、日本と同じく高齢化が問題となっており、高齢者看護の現状と取り組みの見学は大変興味深い内容であり、その違いについて多くの質問がなされました。



参加者による集合写真



ウェルカムパーティーにて

立石プラザで開催されたウェルカムパーティーには、講義や実習後の学生や教員が多く参加し、看護学部全体で留学生と教員を歓迎することができました。本学学生は浴衣姿でお迎えし、MSUと本学の参加者が混じってグループ対抗でジブリクイズを開催するなど楽しく日本文化が紹介されました。留学生からは、民族衣装を着てタイ舞踊が披露されるなど、お互いの文化の理解を深め、楽しい交流となりました。

最終日は、名古屋城の観光や留学生のショッピングに同行するなど、同じ時間を過ごす中で看護学生の仲間を作ることができ、4日間という短いプログラムではありましたが国際交流への関心が高まるきっかけとなりました。

今後も活発な交流を継続していくことを双方で確認し、プログラムは盛況のうちに終了しました。次回は令和6年3月に本学からマハサラカム大学への訪問が予定されています。

国際交流



シンガポール国立大学への看護学研究科 海外研修及び教員研究交流実施

看護学部・大学院看護学研究科では、シンガポール国立大学（National University of Singapore：NUS）ヨン・ルー・リン医学部アリス・リー看護学科と令和3年に学術国際交流協定を締結し、修士課程において高度実践看護師（Advanced Practice Nurse：APN）を養成しているという共通点から、大学院生の海外研修プログラムを検討してきました。NUSは11学部、約4万人の学生を要する、世界大学ランキングでもアジア1位に位置する総合大学です。今回シンガポールにおけるAPNの役割と機能を学ぶことを目的として、令和5年3月19日（日）～26日（日）の7泊8日にかけて、NUSへの看護学研究科海外研修及び教員研究交流が実施され、本学高度実践看護師（診療看護師[NP]）コースの大学院生2名、教員2名が参加しました。【写真】

シンガポールのAPNは、米国のNurse PractitionerとClinical Nurse Specialistの役割を組み合わせたものになっています。NUS Alice Lee Centre for Nursing Studies（看護学部：ALCNS）は、シンガポール唯一のAPN教育機関で、その教育は平成15年から開始されています。

本研修では、NUS ALCNSでのAPNコース大学院生の講義への参加やシミュレーションセンターでのOSCEの見学、APNが臨床実践する大学病院、公立病院、polyclinic（公立診療所）の見学が行われました。また、Ministry of Health（保健省：MOH）教育担当職員（医師）から、シンガポールのヘルスケアシステム、APN制度に関する講義では、NUS ALCNSとMOHが常に情報共有し、国民の医療ニ-



ズと国家の方針に沿って数年単位でプログラムの改訂を行い、改善を続けているということをお話しいただきました。

教員間では、お互いの研究課題や研究内容のディスカッションが行われ、共同研究を実施していくこととなりました。コミュニケーションの中で、同じアジアの民族ということから、医療や患者に対する考え方に共通点があり、今後は、APN教育だけでなく、幅広い看護に関する知見を共有していく予定です。

看護実践研究センター キャリア支援部門 看護研究支援セミナー開催

基礎編 看護研究ことはじめ

令和5年6月17日（土）午前10時から、大学院看護学研究科の山中真教授による看護研究支援セミナー基礎編「看護研究ことはじめ」がオンライン形式で開催され、幅広い地域の医療施設から57名の方にご参加いただきました。

看護研究の基本の講義では、自分が楽しみ、誰かを幸せにしたいという姿勢が看護研究に取り組む上で重要であるという話があり、「看護研究と聞くと、とても憂鬱な気持ちになるが、もしかしたら少しは楽しいこともあるのかなと思うことができた。」などの感想が寄せられました。また、看護研究の中核となる研究課題の選択におけるポイントについては、旅行や料理など私たちの身近なことに例えた説明が大変好評で、「とても具体的で捉えやすかった。」「難しいことを分かりやすく説明していただき、研究が少し身近に感じた。」などの感想が寄せられました。

今回初めての試みとして、講義終了後に自由参加で参加者が講師に質問できる「放課後タイム」が設けられ、「研究課題をスタッフから募る良い方法



オンラインセミナーを行う山中教授

は？』、「どのような文献を読めばいいのか？」など講義で学んだ知識を深める質問が挙がりました。また、研究を進めている参加者の悩みに対しても講師からアドバイスがあり、「何でも聞くことができる先生の雰囲気良かった。」「質問に一つ一つ丁寧に回答していただいた。」などの感想が寄せられました。

基礎編は、これから看護研究に取り組もうとする参加者を応援するセミナーとなりました。

実践編 アンケート作成レシピ

令和5年7月8日（土）に、基礎編同様、山中真教授による看護研究支援セミナー実践編「アンケート作成レシピ」がオンライン形式で開催され、幅広い地域の医療施設から57名の方にご参加いただきました。

量的研究において尺度における精度の重要性と、アンケート作成時に研究者の知りたいことが回答者へ適切に伝わる設問を設定するための注意点について、実際のアンケート項目を用いた説明があり、「アンケートの取り方次第で結果が大きく変わってしまうため、安易に作成してはダメだと気付いた。」などの感想が寄せられました。また、講師による身近な事例を用いた説明は大変好評で、「イメージがしやすい言葉選びを心がけてくださっているので、自分で考えてみることができ、理解度が深

まることの嬉しさ・楽しさを味わうことができた。」などの感想が寄せられました。

基礎編から始まった「放課後タイム」では、「尺度選択の視点は？』、「設問における倫理的配慮はどうすれば良いか？」など講義の学びを深める質問が挙がりました。参加者からは、「今、実際悩んでいることに関してアドバイスをいただくことができたので大変参考になった。」「自分が思いつかない質問があり、参考になった。」などの感想が寄せられました。

本セミナーは基礎編・実践編の2部構成でしたが、今回の実践編では、量的研究を実際に進めるためのエッセンスを学ぶことができ、参加者が看護研究に取り組む第一歩を踏み出すことができるセミナーとなりました。

看護実践研究センター 地域連携・支援部門 第11回ながくて子育てフェスタ開催

令和5年5月14日（日）午後2時から長久手市福祉の家において、第11回ながくて子育てフェスタが開催されました。令和3年6月に育児・介護休業法が改正され、令和4年10月1日から男性の育児休業取得促進のため「産後パパ育休」が施行されたことに伴い、今回のフェスタでは、0～3歳児を育てる父親を対象に「今日はパパがヒーローだ!」と題して、「子育て支援ネットながくて」との共催で対面にて開催されました。【写真】

内容としては、小児救急看護認定看護師による家庭内における子どもの事故防止に関する講義、絵本の読み聞かせライブ、パパたちの座談会が行われ、当日は17組の家族（父親17名、母親8名、子ども20名）の参加がありました。参加者からは、「誤飲



チェッカーを使って家の中にある玩具などを確認したい。」「すぐに実践できそうな話で良かったです。」などの感想がありました。

今後も、看護実践研究センターの地域連携・支援部門では、長久手市で必要とされている子育て支援の在り方について模索することに努めていきます。

公益財団法人日本医療機能評価機構 病院機能評価認定

本院では、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価（3rdG:Ver.2.0）の更新審査を受審し、審査区分の主たる機能種別「一般病院3」及び副機能種別「精神科病院」について、基準達成による認定証の交付を受けました。平成17年10月17日に初回の認定を受け、以後、継続して更新しており、今回の認定期間は、令和2年10月17日から令和7年10月16日までとなります。

病院機能評価とは、病院を対象に行われる公益財団法人日本医療機能評価機構による評価であり、病院組織全体の運営管理や提供される医療について、第三者機関として中立的・科学的・専門的な見地から評価が実施されます。



認定証

今後も愛知医科大学病院は、医療の質の向上と安全性の確保に努め、患者さんの視点に立った医療を提供し、地域社会への積極的な貢献を行い、選ばれる病院を目指して努力をして参ります。

道勇学病院長 所信表明

令和5年5月18日（木）午後4時30分から大学本館たちばなホールにおいて、道勇学病院長による2期目の所信表明が開催されました。

多くの職員が出席し、道勇病院長から病院が持続的にクリアしていくべき8課題（①医療の安全性と質の向上、②経営基盤強化に繋がる病院経営、③臨床医学研究・先端医療開発の充実、④有能な医療人の育成と活用、⑤地域医療連携の促進、⑥救急医療体制の充実、⑦働き方改革への対応、⑧リハビリテーション医療の充実）について説明がありました。そして、これらの課題を理事長直轄のプロジェクトと協働しながら、病院長のガバナンスの下でマネジメントとモニタリングを行い、アクションからアウトカムへと繋げていくことを表明されました。そのためにも、副院長の職務を明確に規定し、円滑



所信表明を行う道勇病院長

な管理体制としたことを述べられました。

最後に、職員に対し「本院のキャッチフレーズ通り、限界を超えて、更にその先へ行くためにも元気を持って本院を盛り上げていこう。」と締めくくられました。

あいちMACT正式稼働

令和4年7月から試行事業として取り組んでいた「あいちMACT（Vital Monitor Alarm Control Team）が、令和5年6月1日から正式稼働となりました。あいちMACTは、必要な患者さんに適切なモニタリングをすることで患者さんの安全を守ることを目的に活動しており、メンバーは、医師・看護師・臨床工学技士・病院事務部・医療安全管理室・RRT/RSTで構成され、組織横断的に活動するチームです。

正式稼働までの1年間に、全看護職員、医師、臨床工学技士を対象とした勉強会が開催され、勉強会の効果測定及び病棟支援のためラウンドが実施されました。夜勤中に携帯することで、セントラルモニターを手元のiPadで確認できるViTracが導入されたことで、患者さんの安全確保に繋がり、電池切れゼロを継続するための手順の修正やテクニカルアラームの分析を行うことで、アラーム減少に繋がる成果が上がっています。

正式稼働後は、よりパワフルに患者さんの安全と看護師の負担軽減を目指して活動していきますの



天野哲也チーム長とチームメンバー



MACTピンバッジ

で、モニター管理でお困りの際は、気兼ねなくお声がけください。

看護補助者・医師事務作業補助者の呼称決定 愛Mate・ドクターズクラーク

病院においては、医療従事者のタスク・シフト／シェアが積極的に進められる中、本院においても、看護業務の負担軽減や患者さんの満足度向上に向けて、141名の看護補助者が勤務し、職種間のタスク・シフト／シェアが進んでいます。

また、令和6年4月から医師の時間外・休日労働上限規制がスタートします。医師の労働時間を短縮するためには医師だけでなく病院全体で働き方改革を推進する必要があり、本院においても医師事務作業補助者やコメディカルへのタスク・シフトを検討し、役割分担を明確にする取り組みが進んでいます。

このたび、病院内での認知度等の向上のため、看護補助者及び医師事務作業補助者の呼称が決定されました。看護補助者の呼称については、一緒に働くチームの一員として親しみを持てるよう、看護部内で名称が募集され、看護職員・看護補助者双方の投票により「愛Mate（アイメイト）」に決定しました。この名称には、患者さんを快方に導く仲間として一緒に働きたいという思いが込められています。令和



井上看護部長達と記念撮影

5年7月11日（火）には、名称が採用された山崎義隆看護師及び応募された皆さんに対し、看護部から感謝状が贈呈されました。

また、医師事務作業補助者の呼称は、メンバーによる多数決により「ドクターズクラーク」に決定しました。

今後は、この名称を皆さんに覚えていただき、チーム力を高めながら更に病院業務に貢献されることが期待されます。

高校生一日看護体験研修実施

令和5年8月2日（水）に愛知県看護協会からの依頼を受け、高校生一日看護体験研修が実施されました。

この研修は、新型コロナウイルス感染症の拡大のためしばらく中止されていましたが、今年度は4年ぶりの開催となり、近隣の高校から男女合わせて30名の生徒が参加しました。

オリエンテーションを受けた後、井上里恵看護部長から一日看護師辞令が交付され、看護師のユニフォームを着て病棟へ行き、本院の看護師と一緒に行動しながら患者さんとふれあいました。また、お互いに血圧測定をしたり車いす移送をしたりと患者体験や看護師体験も行いました。実際に看護師が働く姿を見ることで、研修後のアンケートでは、「てきぱき働く看護師の姿を見て私もそんな看護師になりたいと思った。」、「看護師に憧れていたが、もっ



参加者での記念撮影

となりたと思った。」、「オープンキャンパスでは分からない職場の実際の雰囲気を知ることができた。」という意見が聞かれました。

この研修を通して、多くの高校生に、医療に関わる仕事や「看護の道に進みたい」という思いがより強くなることを願っています。

メディカルセンター 短期メディカルリハ入院開始

令和5年5月から、メディカルセンターにおいて、短期メディカルリハ入院が開始されました。

短期メディカルリハ入院とは、在宅生活における活動量の減少により身体機能が徐々に衰え、以前より日常生活動作が低下し、介助者の介助量が増加してきた方を対象に集中的にリハビリテーション治療を行う短期間（2週間）の入院です。集中的リハビリテーションを行うことで、少しでも身体機能を回復し、住み慣れた在宅生活を長く送っていただくことが目的であり、疾病予防の効果も期待できます。

入院中はリハスタッフとの直接的な訓練だけではなく、全身の状態を評価し、患者に応じた機器トレーニングも提供することで1日を通して活動量の増大を図ります。また、在宅に戻られてからも運動が継続できるよう指導しています。

短期メディカルリハ入院された患者さんが、身体が楽になったと実感していただき、また利用したいと思っただけのよう、取り組んでいきます。



トレーニングマシン（HUR）



入院患者さんのリハビリテーションの様子

愛知医大サービス株式会社 オープンキャンパスにて特設売店出店

愛知医大サービス株式会社では、愛知医科大学オリジナルグッズの企画・販売を行っており、令和5年7月29日（土）・30日（日）、8月11日（金・祝）に開催された愛知医科大学オープンキャンパスにおいて、同社から4年ぶりに特設売店が出店されました。【写真】

当日は、特設売店においてクッキーやおかし、文房具やタオルなど、多彩なオリジナルグッズが数多く並べられ、参加した高校生には、特に文房具が好評で、大学名の入ったペンやお得なセットを多くの方にご購入いただきました。愛知医科大学への入学を考えている皆さんにオリジナルグッズを知っていただく良い機会となりました。

また、同社が管理しているレストラン「オレン



ジ」では、学食体験として来場者にランチを試食していただきました。リニューアルされたばかりの広々とした店内で、大学生活をイメージしながらお食事を楽しんでいる様子がうかがわれました。

外国語 山森 孝彦教授 日本医学英語教育学会 第17回植村研一賞受賞

医学部外国語の山森孝彦教授が、令和5年7月1日（土）に一橋大学の一橋講堂で開催された日本医学英語教育学会において、第17回植村研一賞を受賞しました。

これは、学会創設者である植村研一氏を冠した、学会における優れた教育内容を発表した者に授与されるものです。発表演題Quantitative analysis of eye contact as a numerically measurable factor to evaluate communication and interpersonal skills in medical history-taking performanceは、医学生のための夏の英語キャンプにおける医療面接練習中のアイコンタクトの長さやパターンを解析した研究で、昨年度の全発表者のうち最高得点での選出となり、今年度の学会で表彰されることとなりました。

受賞された山森教授からは「2019年まで11年間連続で実施していた愛知医科大学の英語キャンプにお

医学英語教育学会学術集会



植村氏から賞状と盾を授与される山森教授（左）

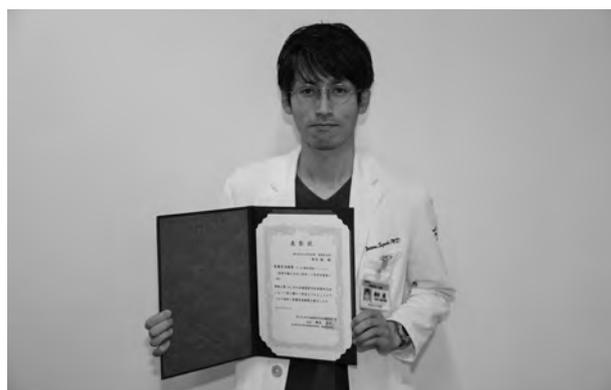
ける言語及び非言語のトレーニングの様子を分析した発表について、皆さまに評価していただくことができ、それも自身が定年退職する年度での受賞となり大変嬉しく思います。」との感想がありました。

循環器内科 鈴木 航助教（医員助教） 第161回日本循環器学会東海地方会 U-40優秀演題セッション最優秀演題賞受賞

循環器内科の鈴木航助教（医員助教）【写真】が、令和5年6月3日（土）にウインクあいちで開催された、第161回日本循環器学会東海地方会において、「U-40優秀演題セッション最優秀演題賞」を受賞しました。

これは、日本循環器学会の地方会として行われた第161回日本循環器学会東海地方会での発表演題「僧帽弁輪石灰化に併発した再発性腫瘍の一例」が、珍しい症例の提示及び優れた文献的考察であり、循環器の日常診療に有益な情報を提供したとして高く評価されたものです。

受賞された鈴木助教（医員助教）からは、「この度は素晴らしい賞をいただき大変光栄に存じます。



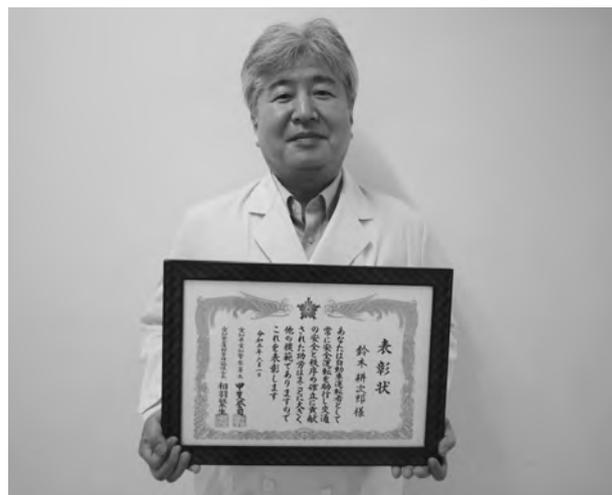
日頃の皆さまのご指導のおかげと感謝しており、今後とも引き続きよろしくお願い致します。これからは学会の演題賞やYoung Investigator Awardなどあれば、積極的に挑戦していきたいと思っております。」との感想がありました。

優良自動車運転者表彰

毎年春に、模範的な運転を行い、交通の安全確保に貢献している方に対し、愛知警察署、交通安全協会及び愛知安全運転管理協議会から「優良自動車運転者表彰」が行われています。

今年は、令和5年6月1日（木）に医学部教務部長の鈴木耕次郎教授（放射線医学講座）【写真】が表彰を受けました。この表彰は、運転士の交通安全に配慮し、自ら安全運転を心掛け、長年無事故・無違反を続けていることが評価されたものです。

鈴木教授からは、「学生が安全運転を心掛けるように、教員としてこれまで以上に注意して運転していきたいと思います。」と感想をいただきました。



看護部 村松 有紀副部長 メディカルセンター看護部 青山 めぐみ副部長 愛知県看護功労者表彰受賞

本院看護部の村松有紀副部長及びメディカルセンター看護部の青山めぐみ副部長が愛知県看護功労者賞を受賞しました。

これは、看護職員として長年業務に従事し、顕著な功績のあった者に授与される賞であり、令和5年5月10日（水）愛知県産業労働センター（ウインクあいち）において開催された令和5年度愛知県看護大会の席上で表彰式が行われました。

表彰を受けた村松副部長からは「この度は名誉ある賞をいただき大変光栄に存じます。平成21年に愛知医科大学病院に感染管理室の師長として入社し10年以上が経過しました。ここまで活動することができたのは看護部を始め、病院の皆さまのご協力・ご指導の賜物だと深く感謝しております。今回の受賞にあたっては、看護実践・看護教育に尽力し、特に特定行為研修の立ち上げから修了者の活動支援、またコロナ禍において感染症看護専門看護師、感染管理認定看護師として地域に貢献したことが評価されました。これからもご指導、ご鞭撻をいただきながら活動していきたいと思います。」との感想がありました。また、青山副部長からは「この度、愛知県看護功労者賞をいただきました。このような表彰をいただけましたのも、ひとえに、これまでご指導してくださいました病院や看護専門学校の職場の上司や先輩の皆さま、同僚の皆さまのおかげと深く感謝申し上げます。看護職として勤務し39年が過ぎました。看護師は素晴らしい職業であることを少しでも皆さまと分かち合えるよう、時間のある限り続けていきたいと思います。今後とも、変わらぬご支援ご鞭撻の程、よろしくお願ひ申し上げます。」との感



村松副部長



青山副部長

想がありました。

第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 学生ポスター発表にて医学部学生が受賞

地域総合診療医学寄附講座 教授（特任） 宮田 靖志

令和5年5月12日（金）～14日（日）にポートメッセなごやにおいて、第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会が開催されました。この学会は、日本プライマリ・ケア学会、NPO法人日本家庭医療学会、日本総合診療医学会の3学会の合併により平成22年に設立されたものです。総合診療や地域医療に関する情報提供、研究発表が活発に行われており、これらの領域に関する最大の学会で、令和5年2月現在で約5,400名の会員を抱えています。この学会には学生部会もあり、全国の医学部から大勢の学生が活動に参加しています。

本学では、平成29年の大会から数名の学生を引率してこの学会に参加しており、平成30年からは継続的に学生がポスター発表を行っています。

本年は、全国の医学部から約40の学生ポスター発表が行われ、本学からは六つの発表を行いました。このうち、6学年次生の肥後夏月さんが最優秀賞、5学年次生の富田明日香さんが優秀賞第1位、6学年次生の本美朋華さん、高橋里空さん、平嶋大暉さんが優秀賞3位を受賞しました。

受賞した学生のみならず、発表したすべての学生が、忙しい中しっかりと準備してポスター作製をしてくれ、事前に相当な出来栄であることは分かっていましたが、まさか最優秀賞、優秀賞を受賞するとは思ってもいませんでした。受賞を聞いたときは、学生の努力が報われたことについて、本当にうれしく思いました。

今後は、このような活発な活動が後輩の学生にも浸透していくことを期待しており、その期待が高まる三つの受賞でした。



学生との記念撮影



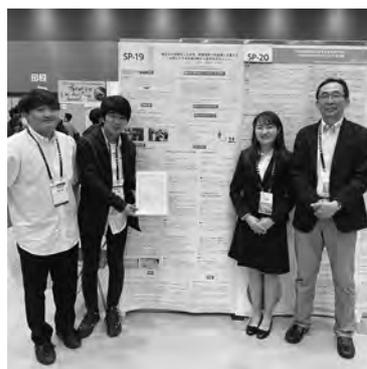
<発表演題>

最優秀賞：肥後さん
地域医療実習で学んだ
「かかりつけ医」の役割
～今後の実習で何を
学ぶ必要があるのか～



<発表演題>

優秀賞1位：富田さん
地域医療実習に関する
学生の学びと今後の実習の
在り方に関する考察



<発表演題>

優秀賞3位：本美さん、
高橋さん、平嶋さん
歌舞伎町で性産業に従事
する女性に対する支援から
参加医学生が学ぶこと

学 術 振 興

学 位 授 与

◆大学院医学研究科



Sajid Iftexhar Chowdhury

学位授与番号 甲第663号

学位授与年月日 令和5年5月11日

論文題目：「The anti-TLR4 monoclonal antibody Sa15-21 enhances inflammatory cytokine production in LPS-stimulated macrophages (抗TLR4モノクローナル抗体Sa15-21は、LPSで刺激したマクロファージでの炎症性サイトカイン産生を増強させる)」



Muhammad Irfanur Rashid

学位授与番号 甲第665号

学位授与年月日 令和5年6月8日

論文題目：「Simple and efficient differentiation of human iPSCs into contractible skeletal muscles for muscular disease modeling (筋疾患モデルに応用し得るヒトiPS細胞から収縮可能な骨格筋へのシンプルで高効率な分化誘導法)」



山中 俊平

学位授与番号 甲第664号

学位授与年月日 令和5年5月11日

論文題目：「Establishment of Mucoepidermoid Carcinoma Cell Lines from Surgical and Recurrence Biopsy Specimens (手術および再発生検標本からの粘表皮癌細胞株の樹立)」



天野 晃滋

学位授与番号 乙第423号

学位授与年月日 令和5年5月11日

論文題目：「Development and validation of questionnaires for eating-related distress among advanced cancer patients and families (進行がん患者と家族の食に関する苦悩の評価尺度の開発)」

外国人研究員のご紹介

本学において研修するため、外国人研究員として来学された方をご紹介します。(敬称略)



キム ナンヨン
Kim NamYeong

国 籍：韓国

現 職：東亜大学校病院・助教

受入講座：眼科学講座

研究期間：R5.6.1～R5.6.30（1か月）

研究課題：上眼瞼における血管・リンパ管の解剖特性の解明と、手術後の組織腫脹を最小限に抑える手術方法の開発



ング ウェイ ピン
Ng Wei Ping

国 籍：マレーシア

現 職：トゥンクアブドゥルラーマン

神経病院・脳神経外科医

受入講座：脳神経外科学講座

研究期間：R5.7.1～R5.7.31（1か月）

研究課題：脳腫瘍に対する神経内視鏡手術の学習

研究助成等採択者

◇公益財団法人三島海雲記念財団

学術研究奨励金【自然科学部門】

・氏名 小松紘司（生理学講座・講師）
 研究題目 オレイン酸摂取が卵子のミトコンドリア機能に及ぼす影響の解明
 助成金額 1,000,000円

◇公益財団法人武田科学振興財団

医学系研究助成

・氏名 榊原伊織（生理学講座・講師）
 研究題目 運動によるエピゲノム制御機構の解明
 助成金額 2,000,000円

・氏名 藤内玄規（ALS治療研究開発部門・助教）
 研究題目 患者iPS細胞由来運動ニューロンを用いた筋萎縮性側索硬化症の病態
 助成金額 2,000,000円

◇公益信託第24回日本医学会総会記念医学振興

基金 研究助成

・氏名 永沢亮（感染・免疫学講座・助教）
 研究題目 二機能性ペプチドから紐解くミュータンス菌の生存戦略
 助成金額 1,000,000円

・氏名 宮原弘明（加齢医科学研究所・准教授）
 研究題目 多角的解析による乳幼児の予期せぬ突然死（SUDI）の原因究明
 助成金額 1,000,000円

◇日本認定遺伝カウンセラー協会

認定遺伝カウンセラー研究助成

・氏名 大東由佳（研究支援課・臨床技術員）
 研究題目 造血器腫瘍診断を契機に発見される生殖細胞系列染色体異常の実態と遺伝診療の探索
 助成金額 120,000円

令和5年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構増額に伴う委託研究開発変更契約の締結

令和5年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託研究課題について、委託研究開発費の増額に伴い、次のとおり変更契約を締結しました。（金額単位：円）

研究事業名	研究開発担当者	委託研究開発費	増額後委託研究開発費（増加額）	研究開発課題名
脳とこころの研究推進プログラム	祖父江 元長 祖学	91,000,000	182,000,000 (91,000,000)	孤発性筋萎縮性側索硬化症の双方向トランスレーショナル研究による病態介入標的の同定と核酸医薬の開発研究

- ・令和5年7月までの日本医療研究開発機構委託研究の代表課題を記載。
- ・委託研究開発費は、他機関への再委託費及び間接経費を含む。

令和5年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構 委託研究開発契約の締結

令和5年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託研究課題が採択され、次のとおり研究契約を締結しました。 (金額単位：円)

研究事業名	研究開発担当者	委託研究開発費	研究開発課題名
再生・細胞医療・遺伝子治療実現加速化プログラム	岡田洋平 加齢医学研究所 神経IPS細胞研究部 教授	39,000,000	運動ニューロン疾患におけるシナプスを介した神経変性機構の解明
医療機器等研究成果展開事業 開発実践タイプ	井上匡央 医学部 内科学講座(肝胆臓内科), 准教授(特任)	26,000,000	内視鏡的胆管内バルーンアブレーション治療に関する研究開発

- ・令和5年5月1日から7月31日までの日本医療研究開発機構委託研究の代表課題を記載。
- ・委託研究開発費は、他機関への再委託費及び間接経費を含む。

令和5年度厚生労働科学研究費補助金交付決定

令和5年度厚生労働科学研究費補助金が採択され、次のとおり交付決定がありました。

(金額単位：千円)

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業	三嶋廣繁 臨床感染症学, 教授	7,000	1,000	性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究
慢性の痛み政策研究事業	井上真輔 運動療育センター, 准教授(特任)	7,700	2,300	就労制限を来たした慢性疼痛患者の就労支援に寄与する多角的包括的研究
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	神谷英紀 内科学(糖尿病内科), 教授	4,240	1,260	糖尿病性合併症の評価法・管理法の確立
難治性疾患政策研究事業	曾根淳 加齢医学研究所 講師	4,000	1,200	我が国における神経核内封入体病患者の実態調査および、診療ガイドライン作成に向けた調査研究
難治性疾患政策研究事業	奥村彰久 小児科学, 教授	4,200	1,260	早産児ビリルビン脳症のリスク因子に着目した診療指針の改訂と包括的診療体制の確立
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業	西原真理 医学部 疼痛医学, 教授(特任)	3,900	1,100	HPVワクチンなどのワクチン接種後に生じる種々の症状についての調査とその対応方法に関する研究

- ・令和5年7月1日時点の情報を掲載。
- ・氏名は、e-Rad（府省共通研究開発管理システム）研究者登録名にて記載。
- ・「交付申請書」を基に作成。

令和5年度科学研究費助成事業 (科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金) 交付決定

令和5年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）が採択され、次のとおり交付決定がありました。

（金額単位：千円）

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
新学術領域研究 (研究領域提案型) (補助金)	武内恒成 医学部 教授 生物学	2,300 (継続)	690	人為的シナプスコネクと神経再編の環境制御による超適応機構の解析と創出
基盤研究(B) (補助金)	渡辺秀人 分子医学研究所 教授	4,000 (継続)	1,200	炎症と腫瘍の組織改築：プロテオグリカンとその分解産物を介した細胞間クロストーク
〃	武内恒成 医学部 教授 生物学	3,400 (継続)	1,020	新規人工シナプスコネクターと再生環境整備による超回復—神経再生への新規治療展開—
〃	井上真輔 医学部 准教授(特任) 運動療育センター	2,100 (継続)	630	ホルモンの変調に起因する運動器の痛みを解明する多面的集学研究
〃	林櫻松 医学部 教授(特任) 公衆衛生学	3,500 (継続)	1,050	GWASで同定した新規膵がん感受性遺伝子GP2に関する分子遺伝疫学研究
〃	菊地正悟 名誉教授	900 (継続)	270	分子疫学研究による胆のうがんリスク要因の解明
〃	前田圭介 医学部 教授(特任) 栄養治療支援センター	2,500 (継続)	750	サルコペニアの摂食嚥下障害の評価と介入法確立に関する老年栄養学的臨床研究
〃	都築忍 医学部 教授(特任) 生化学	3,100 (継続)	930	隠れドライバーから見た、難治性リンパ性白血病の成立・維持機構の解明
〃	岡田洋平 加齢医学研究所 教授 神経iPS細胞研究部	4,800 (継続)	1,440	疾患iPS細胞を用いた神経筋接合部を標的とした運動ニューロン疾患の病態解明
〃	伊藤清顕 医学部 教授 内科学(肝胆腸内科)	4,300 (継続)	1,290	B型肝炎ウイルス侵入機構の解明と侵入阻害剤による感染制御
〃	内藤宗和 医学部 教授 解剖学	3,200 (継続)	960	超微細気泡を用いた虚血再灌流障害の軽減方法の確立
〃	松永昌宏 医学部 講師 衛生学	7,100	2,130	能動的推論による自然の防御シグナルとしての孤独感の検討
〃	曾根淳 加齢医学研究所 講師	3,100	930	神経核内封入体病の病態解明と根本的治療法の開発
基盤研究(C) (基金)	佐藤麻紀 医学部 講師 IR室	(再延長)	0	小児におけるLED光暴露がホルモンリズムおよび時計遺伝子の発現に及ぼす影響
〃	丹羽淳一郎 医学部 教授(特任) 脳卒中センター	(再延長)	0	疾患特異的iPS細胞を用いたポリグルタミン病創薬スクリーニングシステムの開発
〃	尾崎将之 医学部 准教授 救急集中治療医学	(再延長)	0	補体活性化制御によるSTEC-HUSの治療を旨とした基盤研究
〃	梅村朋弘 医学部 講師 衛生学	(再延長)	0	南アジアにおける大気汚染と健康障害：都市と農村の比較およびマスク介入の効果

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) (基金)	仙石昌也 医学部 物理学, 准教授	(再延長)	0	クラウドを利用した協働作業プロセスの定量的指標の開発と評価への応用
〃	藤内玄規 ALS治療研究開発部 助教授	(再延長)	0	異常タンパク分解系を標的とした運動ニューロン疾患治療薬の開発
〃	猪子誠人 医学部 病理学, 講師	(再延長)	0	上皮組織が階層分化する仕組みの細胞生物学的理解
〃	山崎達也 医学部 感染症・免疫学, 講師	(再延長)	0	自然免疫受容体に対するアゴニスト抗体のワクチンアジュバントへの応用
〃	道勇学 医学部 内科学(神経内科), 教授	(再延長)	0	疾患iPS細胞を用いた球脊髄性筋萎縮症の骨格筋病態の解明
〃	中村亮一 医学部 内科学(神経内科), 講師	(再延長)	0	候補遺伝子アプローチによる筋萎縮性側索硬化症病態関連遺伝子の探索
〃	松下宏 医学部 産婦人科学, 准教授	(再延長)	0	若年女性に増加している子宮内膜症は閉経後骨粗鬆症の危険因子か?
〃	高橋伸典 医学部 整形外科学, 教授	(再延長)	0	ヒアルロン酸レセプター CD44の断片化阻害による, 軟骨細胞の脱分化抑制効果
〃	白井裕子 看護学 地域・在宅看護学, 准教授	(再延長)	0	野宿生活者が路上にとどまる理由-野宿生活の長期化に影響を与える野宿生活者の経験-
〃	山本恵美子 看護学 基礎看護学, 准教授	(延長)	0	「介護安全」のための職種特性を活かした連携安全力の測定と教育実践
〃	心光世津子 看護学 精神看護学, 教授	(延長)	0	学際的アプローチによる精神科病棟看護における自己決定支援の視点・要件の可視化
〃	山森孝彦 医学部 外国語, 教授	(延長)	0	英語医療面接評価で着目する定量的観察可能な要素の抽出とキャリブレーション動画作成
〃	宮本淳 医学部 心理学, 教授	(延長)	0	協働学習の心理的成果の測定
〃	幡野その子 分子医学研究所 助教授	(延長)	0	コンドロイチン硫酸による免疫応答制御: 糖鎖構造とシグナル伝達機構
〃	小西裕之 医学部 生化学, 教授(特任)	(延長)	0	臨床応用を目指す高効率・高精度なCRISPRノックイン法の確立
〃	山村彩 医学部 生理学, 講師	(延長)	0	肺高血圧症リモデリングに関与するカルシウム感受性受容体の新規下流シグナルの探索
〃	中出幸臣 医学部 内科学(肝胆膵内科), 教授(特任)	(延長)	0	コノフィリンによるNASH進展抑制機序の解明
〃	中山享之 医学部 中央臨床検査部, 教授(特任)	(延長)	0	脂肪組織由来間葉系幹細胞-造血幹細胞における代謝経路解析: 抗加齢作用に注目して
〃	小松孝行 医学部 感染・免疫学, 教授(特任)	(延長)	0	抗インフラマソーム能欠失型ウイルスを利用した新しいウイルス予防・治療法の研究
基盤研究(C) (一般)(基金)	馬嶋剛 医学部 泌尿器科学, 准教授	(延長)	0	骨格筋由来マイオカインによる臓器連関を標的とした排尿筋低活動の新規創薬研究

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) (一般)(基金)	林 寿 来 医 生 学 講 師 理 学	(延長)	0	加齢黄斑変性における再生療法に向けた細胞外小胞の機能解明
〃	宮 崎 英 隆 医 学 准 教 授 (特 任) 眼 形 成 ・ 眼 窩 ・ 涙 道 外 科	(延長)	0	細菌由来メンブレンヴェシクルの高感度検出法の開発と慢性炎症性血管疾患からの同定
〃	青 木 瑠 里 客 員 研 究 員	(延長)	0	「医学教育における学修支援の在り方についての探索的研究」
〃	川 合 紗 世 医 公 衆 衛 生 学 講 師 法 医 学	(延長)	0	次世代へのピロリ菌感染防止による胃がん予防に向けた経済分析
〃	小 川 匡 之 法 医 学 准 教 授	(延長)	0	新規前処理法を用いた血中薬毒物LC-MS/MS分析法開発とその評価法の検討
〃	林 さ え 子 看 人 看 護 学 講 師 成 人 看 護 学	(延長)	0	前立腺がん治療に伴う性機能障害を支える患者と家族への情報提供ツールの検討
〃	森 田 博 之 客 員 教 授	(延長)	0	家族性先端巨大症罹患アスリートの発掘 — 新規原因遺伝子同定への学際的アプローチ —
〃	藤 田 京 子 医 眼 科 講 師	100 (継続)	30	薄暮時や夜間における視覚障害者の行動評価と視機能との関連
〃	尾 張 慶 子 医 疾 痛 医 学 助 教	700 (継続)	210	若年慢性疼痛における睡眠習慣の調査およびアセスメントツールとしての睡眠検査の検討
〃	宮 原 弘 明 加 齢 医 科 学 研 究 所 師	400 (継続)	120	MELAS剖検脳を用いた脳卒中様発作部位のミトコンドリア機能解析
〃	倉 橋 宏 和 医 小 児 科 学 講 師	400 (継続)	120	MYRF遺伝子を起点とした発熱時言動異常の病態解明
〃	伊 藤 理 部 医 内 科 学 (呼 吸 器 ・ ア レ ル ギ ー 内 科) 教 授	500 (継続)	150	機械感受性チャネルPiezo1とメカノセンサーを標的とした呼吸器疾患の病態解明
〃	山 本 弘 江 看 母 子 看 護 学 准 教 授 護 学	800 (継続)	240	子育て期の家族のメンタルヘルスに着目した支援とソーシャルキャピタルのあり方の検討
〃	森 下 啓 明 医 糖 尿 病 内 科 講 師 病 理 学	900 (継続)	270	CIDE-A-AMPK経路を標的とした小胞体ストレス関連疾患治療薬の探索
〃	都 築 豊 徳 医 病 理 診 断 学 教 授	600 (継続)	180	前立腺導管癌の分子生物学的特徴及び治療予測への人工知能の応用
〃	鈴 木 進 一 研 究 創 出 支 援 セ ン タ ー 教 授 准 教	900 (継続)	270	制御性T細胞除去とTGF-β阻害剤を併用した新たながん免疫療法の開発
〃	藤 川 誠 部 医 薬 理 学 助 教	1,000 (継続)	300	血球エネルギー代謝解析による認知症早期診断の開発研究
〃	大 西 紘 二 医 病 理 学 講 師	1,300 (継続)	390	がん患者の抗腫瘍免疫のアクセラレーション機能を評価できる血液中バイオマーカー評価法の開発
〃	岩 崎 靖 加 齢 医 科 学 研 究 所 授 教	900 (継続)	270	V180I遺伝性クロイツフェルト・ヤコブ病の発症と病態進展に関わる因子の解明
〃	丹 羽 淳 一 医 脳 卒 中 セ ン タ ー 教 授 (特 任) 学	600 (継続)	180	iPS細胞を用いた運動ニューロン疾患の神経筋シナプス機能の解析

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) (一般)(基金)	大 宝 和 博 客 員 研 究 員	500 (継続)	150	転移性脳腫瘍の病態に適合した物理的・生物学的原体性の高い高精度光子線照射法の確立
〃	岩 山 秀 之 医 小 児 科 学, 講 師	1,000 (継続)	300	MCT8異常症の新規診断法と治療法の開発および政令指定都市を対象とした大規模解析
〃	奥 村 彰 久 医 小 児 科 学, 教 授	1,000 (継続)	300	乳児期発症てんかんの遺伝学的解析に基づく精密医療の基盤構築
〃	垣 田 博 樹 医 学 センター, 准教授	900 (継続)	270	低体温療法を中心としたグリアの機能制御による新生児脳障害の包括的な新規治療戦略
〃	石 本 卓 嗣 医 内 科 学 (腎臓・リウマチ膠原病内科), 教授	600 (継続)	180	フルクトース代謝を標的とした糖尿病性腎臓病の病態解明と新規治療法の開発
〃	神 谷 圭 介 医 腎臓・リウマチ膠原病内科, 助教 (医員助教)	1,200 (継続)	360	腹膜透析におけるガス状伝達物質を用いた新たな腹膜劣化予防・治療法の開発
〃	伊 藤 恭 彦 経 営 戦 略 推 進 本 部 特 命 教 授	700 (継続)	210	内皮細胞Glycocalyxをターゲットとした腎疾患の新たな治療戦略の確立
〃	高 見 昭 良 医 内 科 学 (血液内科), 教授	1,000 (継続)	300	ADAMTS13遺伝子多型ゲノム編集血管内皮細胞の作製と新規白血病治療法の探索
〃	恒 川 新 医 内 科 学 (糖尿病内科), 教授 (特任)	300 (継続)	90	自己免疫性モノアミン合成障害による新規低血圧疾患概念の確立
〃	永 井 尚 子 分 子 医 学 研 究 所 助 教	1,200 (継続)	360	視床下部へパラリン硫酸によるレプチンシグナル伝達制御機構の解明
〃	野 田 貴 幸 大 薬 剤 部, 薬 剤 師	900 (継続)	270	ヒト化マウスによるドナー特異的抗体産生免疫プロファイリングの解明と個別化医療
〃	矢 野 智 紀 医 臨 床 腫 瘍 センター, 教授	600 (継続)	180	非喫煙者肺癌の浸潤増殖にエストロゲンが与える影響の解明：新たな肺癌治療法の探索
〃	渡 邊 栄 三 医 救 急 集 中 治 療 医 学, 教 授	1,200 (継続)	360	敗血症病態における血小板減少症への補体系活性化の関与とその治療戦略の開発
〃	畔 柳 佳 幸 医 腎臓・リウマチ膠原病内科, 講師	800 (継続)	240	非翻訳RNAに着目したCNI腎症早期発見システムの構築
〃	岩 崎 研 太 医 腎疾患・移植免疫学寄附講座, 准教授	800 (継続)	240	Indirectアロ応答T細胞の同定と坑ドナー抗体感知モニタリングへの応用
〃	小 川 徹 也 医 耳 鼻 咽 喉 科・頭 頸 部 外 科 学, 教授 (特任)	1,000 (継続)	300	頸部リンパ節における腫瘍免疫環境の解明－免疫学的頸部郭清術の確立を目指して
〃	青 山 恵 美 看 護 学, 准 教 授	1,100 (継続)	330	医療施設内結核感染予防のための結核健診受検職員の継続支援システムの構築と臨床応用
〃	山 幡 朗 子 看 護 学, 准 教 授	400 (継続)	120	地域包括ケアシステムにおいて外来看護師に求められるコンピテンシーの探索的研究
〃	山 中 真 看 護 学, 教 授	900 (継続)	270	熟練看護師の聴診技術の可視化
〃	佐 々 木 裕 子 看 護 学, 准 教 授	1,000 (継続)	300	在宅でエンドオブライフを生きる訪問看護利用者への在宅スピリチュアルケアの明確化

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) (一般)(基金)	榑原伊織 医学, 講師 生理学, 講	800 (継続)	240	運動による転写制御の分子機構の解明
〃	出家正隆 名誉教授	500 (継続)	150	変形性膝関節症に対する水中運動による筋力強化は本当に有効か?
〃	小林孝 分子医学研究 小分子医学研究 助	1,100 (継続)	330	ヘパラン硫酸の糖鎖構造: iPS細胞分化シグナルの選択的制御
〃	佐藤元彦 医学, 教授 生理学, 教	1,100 (継続)	330	G蛋白活性調節因子を標的とした治療の基礎検討
〃	佐藤啓 病理診断学, 講 病	1,800 (継続)	540	リンパ球豊富型およびリンパ球減少型古典的ホジキンリンパ腫の発生機構の解明
〃	村上秀樹 客員研究員	1,100 (継続)	330	悪性胸膜中皮腫の分子病理診断パネルの構築と分子サブタイプ特異的マーカーの同定
〃	池野正史 生物学, 准教授 生	1,300 (継続)	390	悪性グリオーマの遺伝子細胞治療に向けたヒト歯髄幹細胞の加工と製剤化
〃	熱田直樹 内科学(神経内科), 准教授 医	1,000 (継続)	300	臨床ゲノム情報と結びついた神経病理解析による筋萎縮性側索硬化症の多様性解明
〃	笹倉寛之 生物学, 特別研究助教 医	1,000 (継続)	300	人為的シナプス架橋による失われた中枢神経機能の回復
〃	中村亮一 内科学(神経内科), 講師 医	1,100 (継続)	330	筋萎縮性側索硬化症のmissing heritabilityに関わる遺伝子の探索
〃	伊藤卓治 加齢医学研究 加齢医学研究 助	1,300 (継続)	390	シングルセルを活用した運動ニューロン疾患の新規病態関連因子探索システムの構築
〃	北川晃 放射線科, 講師 医	600 (継続)	180	四肢の動静脈奇形に対する4D画像を用いた血流解析による治療効果判定法の確立
〃	増渕悟 生理学, 教授 医	1,000 (継続)	300	不眠を伴う睡眠時無呼吸症候群(COMISA)のモデル動物作成と解析による病態解明
〃	細川好孝 生化学, 教授 医	1,200 (継続)	360	癌抑制遺伝子BAP1を標的とした胸膜中皮種新規阻害薬の開発
〃	花村一郎 内科学(血液内科), 教授(特任) 医	900 (継続)	270	ゲノム編集を利用したKRAS変異骨髄腫に対する新規治療標的薬の探索
〃	萩原真生 分子疫学・疾病制御学寄附講座, 准教授 医	200 (継続)	60	酪酸産生菌によるウイルス性呼吸器感染症に対する治療効果の検討とその作用機序の解明
〃	乾匡範 医学, 講師 感染・免疫学, 講	1,100 (継続)	330	TLR4を標的とした新規免疫賦活効果の分子基盤の解明と感染症予防への応用
〃	姫野龍仁 内科学(糖尿病内科), 准教授 医	800 (継続)	240	糖尿病性多発神経障害におけるinsulin-Notch連関の異常と再生機構の破綻
〃	畑山直之 医学, 准教授 解剖学, 准	900 (継続)	270	移植臓器の体外治療を目指した新たな生理活性ガス送達技術の確立
〃	中野正吾 外科学(乳腺・内分泌外科), 教授 医	800 (継続)	240	ICG蛍光マーキングによる非触知乳癌に対する手術ナビゲーションシステムの開発

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研 究 課 題
基盤研究(C) (一般)(基金)	シバスندگان カルナン 医学部 生化学, 講師	1,200 (継続)	360	NF2/CDKN2A欠失型中皮腫における脂質代謝異常を標的とした分子標的薬の開発
〃	加納 秀 記 医学部 救急診療部, 教授	800 (継続)	240	急性呼吸促進症候群に対する造血幹細胞移植：炎症制御と血管再生の試み
〃	宮地 茂 医学部 脳神経外科学, 教授	600 (継続)	180	脳血管内治療における遠隔手術支援ロボットの開発
〃	大須賀 浩 二 看護学 大病態治療学, 教授	1,300 (継続)	390	脊髄損傷後の歯髄幹細胞治療の作用機序の解明と更なるadjuvant治療の確立
〃	池本 竜 則 医学部 整形外科, 准教授(特任)	1,100 (継続)	330	免疫調整薬による変形性膝関節症の重症化予防効果の検証：動物モデルによる基礎研究
〃	瓶井 資 弘 医学部 眼科学, 教授	1,200 (継続)	360	網膜神経細胞保護作用を介した新たな網膜色素変性治療の検討
〃	早稲田 勝 久 医学部 医学教育センター, 教授	900 (継続)	270	臨床実習評価システムの包括的再検討と獲得する診療技能への影響：良医育成を目指して
〃	黒澤 昌 洋 看護学 臨床実践看護学, 准教授	700 (継続)	210	ナース・プラクティショナー(仮称)制度の構築に向けた養成教育カリキュラム検討
〃	泉 雅 之 看護学 臨床実践看護学, 教授	400 (継続)	120	診療看護師・研修医・医学生の医療面接におけるコミュニケーションの特徴
〃	谷口 千 枝 看護学 成人看護学, 教授	900 (継続)	270	心血管疾患患者の退院後再喫煙予防のための禁煙支援プログラムの開発
〃	坂本 真理 子 看護学 地域・在宅看護学, 教授	900 (継続)	270	地域で活動する保健師の異文化間看護能力育成プログラムの開発
〃	深見 保 之 医学部 外科学(消化器外科), 准教授(特任)	500 (継続)	150	術前からEMSを用いた膀胱癌サルコペニア予防プログラムの多施設共同開発
〃	松下 宏 医学部 産婦人科学, 准教授	1,800 (継続)	540	骨強度の観点から女性アスリートの妊娠・出産後の競技復帰を促進するための基礎的研究
〃	森 直 治 医学部 緩和ケアセンター, 教授	600 (継続)	180	がん悪液質の日本人における診断基準の確立
〃	関 泰 輔 医学部 メディカルセンター, 教授(特任)	600 (継続)	180	運動器疾患をターゲットとした生活習慣・栄養摂取に関するバイオマーカー探索
〃	大橋 渉 医学部 臨床研究支援センター, 准教授	1,500	450	教員の性犯罪と小児性愛障害の関係 ～教員免許状の欠格事由になり得るか？～
〃	幡野 所の 子 分子医学 研究所 助教	1,200	360	間葉系幹細胞の機能を制御するコンドロイチン硫酸の構造
〃	服部 聡 子 研究創出支援センター 准教授	1,400	420	マウスの細微な動き情報をデータ要素とした行動表現型の評価方法の開発
〃	佐藤 麻 紀 医学部 IR室, 講師	600	180	季節変動遺伝子の網羅的探索による冬季うつ病の解明
〃	山村 彩 医学部 生理学, 講師	1,100	330	肺動脈性肺高血圧症におけるHippoシグナルの病態生理学的意義の解明

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) (一般)(基金)	井 卓 哉 医学, 講 師 松 生 理 学	1,700	510	肺腺がん治療を指向した新規カルバズールアル カロイドの制御系の解析と治療薬の開発
〃	伊 藤 秀 明 医学, 講 師 医 病 理 学	1,300	390	粘表皮癌におけるΔNp63陽性細胞先導による 分子浸潤メカニズムの解明
〃	中 村 律 子 医学, 講 師 医 病 理 学	1,600	480	乳管形成および早期乳癌浸潤阻害における分子 機構の解明
〃	山 崎 達 也 学 講 師 感 染 ・ 免 疫 学	1,000	300	トル様受容体RP105特異抗体を基盤とした遺伝 子ワクチンアジュバントの開発
〃	笠 井 謙 次 医学, 教 授 医 病 理 学	1,800	540	新規ユビキチン化酵素活性化因子ENTREPに よるPD-L1修飾と腫瘍免疫制御機構の解明
〃	荒 井 潤 学 助 教 肝 胆 膵 内 科	1,400	420	モノクローナル抗体を用いた自然免疫の賦活化 による新規抗腫瘍治療法の開発
〃	藤 内 玄 規 ALS 治療研究開発部 門 教 師 助	1,200	360	ALSにおける老化によるタンパク質品質管理 機構の発現変化と病態への影響
〃	陸 加 雄 一 加 齢 医 学 研 究 所 師 講 講	2,100	630	神経変性疾患におけるtau凝集とTDP-43凝集に 共通した足掛かり分子の解明
〃	徳 井 啓 介 脳 卒 中 セ ン タ ー, 講 師 医 学	1,400	420	神経・筋オルガノイドを用いた運動ニューロン 疾患の病態解明
〃	道 勇 学 部 医 内 科 学 (神 経 内 科), 教 授 内 科	1,400	420	疾患iPS細胞を用いた筋萎縮性側索硬化症の効 率的な病態解析・創薬基盤の構築
〃	山 口 奈 緒 子 薬 理 学, 准 教 授 学 部	1,100	330	うつ病モデルにおけるストレス性交感神経反 応: HPA系による負の制御はあるか?
〃	下 平 政 史 放 射 線 医 学, 教 授 (特 任) 学 部	2,000	600	肺動静脈奇形に対する新たな塞栓術: 内膨潤型 ハイドロコイルによる標準治療の確立
〃	鈴 木 孝 太 医 生 学, 教 授 衛 生 学 部	2,000	600	時代・世代を超える健康~リアルワールドデー タを用いたDOHaDの疫学的検討
〃	奥 村 彰 規 医 内 科 学 (肝 胆 膵 内 科), 特 別 研 究 助 教 学 部	1,200	360	B型肝炎ウイルス感染成立に必要な肝細胞内リ ン酸化シグナル経路の解明
〃	鬼 無 洋 医 内 科 学 (腎 臓 ・ リ ウ マ ン 膠 原 病 内 科), 准 教 授 (特 任) 学 部	1,400	420	過剰塩分摂取に起因するCKDにみられる炎症 の全身臓器障害の病態解明
〃	小 松 孝 行 医 感 染 ・ 免 疫 学, 教 授 (特 任) 学 部	1,500	450	モノネガウイルスに保存された抗インターフェ ロン機構の解明と治療薬の研究
〃	三 嶋 廣 繁 医 臨 床 感 染 症 学, 教 授 学 部	1,100	330	腸内細菌が産生する脂肪酸によるウイルス性呼 吸器感染症の制御とそのメカニズム解析
〃	石 山 宏 平 医 外 科 学 (腎 移 植 外 科), 准 教 授 (特 任) 学 部	1,200	360	ヒト乳歯歯髄幹細胞を用いた腎島オルガノイド による画期的腎島移植プロトコルの開発
〃	大 石 大 部 救 急 集 中 治 療 医 学, 助 教 学 部	1,700	510	重症熱傷における血管透過性亢進機序の解明- 細胞間接着分子クローディングの解析-
〃	岩 味 健 一 郎 医 頭 蓋 底 外 科 セ ン タ ー, 准 教 授 学 部	800	240	フォトグラメトリーを用いた4D手術記録シス テムの開発と教育・実臨床への応用

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) (一般)(基金)	高橋伸典 整形外科学, 教授	1,200	360	ヒアルロン酸レセプター CD44の断片化阻害による, 関節軟骨変性抑制効果
〃	佐々直人 泌尿器科学, 教授	1,600	480	人工知能を用いた腎がんの多様性と腫瘍微小環境を腫瘍生検とCTから予測する研究
〃	馬嶋学 泌尿器科学, 准教授	500	150	MRIによる新規尿道血流測定法の開発と術後尿失禁の病態解明
〃	巨島文子 客員研究員	1,300	390	ヒト嚙下筋の組織学的検討—多施設共同研究によるサルコペニアの嚙下障害の病態解明
〃	林寿来 生理学, 講師	1,000	300	細胞外小胞による網膜保護作用とその分子機序の解明
〃	古川洋志 形成外科学, 教授	1,200	360	リンパ節のマイクログラフトの実現化に向けた基礎的研究
〃	川合紗世 公衆衛生学, 講師	1,400	420	行政主導の若年者向けピロリ菌感染対策による胃癌予防プログラムの検討
〃	佐藤ゆか 名誉教授	700	210	新興感染症パンデミック初期段階における看護師のエンパワー促進要因とプロセス
〃	伴野学 感染・免疫学, 助教	1,200	360	奇数鎖脂肪酸による快ストレス誘導依存的な抗炎症作用機序の解明
挑戦的研究(萌芽) (基金)	武内恒成 医学, 教授	1,500 (継続)	450	損傷神経機能と感覚受容を回復させるシナプスコネクとAI機械学習解析系の開発
若手研究 (基金)	森島達観 整形外科学, 准教授	(再延長)	0	最小侵襲手術に対応可能なセメントシステムの有限要素モデルを用いた開発
〃	田口宗太郎 パーキンソン病総合治療センター, 助教	(再延長)	0	パーキンソン病治療効果の客観的判定手段としての脳血流SPECT検査の有用性
〃	東慶輝 小児科学, 講師	(再延長)	0	次世代シーケンス解析を用いた新規てんかん遺伝子の探索
〃	伊藤卓治 加齢医学研究所 神経iPS細胞研究部 助教	(再延長)	0	疾患iPS細胞による神経・筋共培養を活用した神経変性疾患の病態解析システムの開発
〃	森麻里 産科母子医療センター, 助教	(延長)	0	NICU入院中の早期運動負荷による新たな早産児の発育改善への試み
〃	松井陽子 精神看護学, 助教	(延長)	0	精神科看護管理者のリカバリー志向を高める取り組み—影響要因へのアプローチから—
〃	安藤博彦 循環器内科, 教授(特任)	(延長)	0	若年性心筋梗塞に対するオメガ3脂肪酸補充療法の有用性および発症予防の検討
〃	伊藤秀明 病理学, 講師	(延長)	0	STILによるタイトジャンクション減弱機構の解明と非浸潤性乳管癌病理診断への応用
〃	成田晶子 放射線医学, 助教	(延長)	0	抗菌・鎮痛性能を有すX線可視化高吸水性ポリマー製球状物質を用いた血管塞栓術の確立
〃	上田昌史 薬理学, 助教	(延長)	0	ZTTK症候群の知的障害発症機構解明を目指した核内蛋白質SONの機能解析

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
若手研究 (基金)	井上匡 医学部 内科学(肝胆腸内科), 准教授(特任)	(延長)	0	胆管癌に対する新規局所治療法の開発
〃	森田奈央 医学部 感染症・免疫学, 助教	(延長)	0	インフラマソームがRSウイルスの病原性発現に与える影響
〃	佐野 昇 研究員	(延長)	0	甲状腺癌における免疫環境の解明と免疫療法の確立
〃	石田雄一 医学部 眼科学, 助教授	(延長)	0	網膜細胞死抑制を介した新たな網膜剥離治療の開発
〃	板津護 医学部 基礎看護学, 助教授	(延長)	0	集中治療室における薬剤耐性菌MRSA交差伝播の危険因子とリスク低減ケア方策の解明
〃	高原大志 医学部 病理診断学, 助教授	(延長)	0	腎細胞癌におけるTGF- β 発現の意義の解析
〃	赤木明生 医学部 加齢医学研究所 講師	700 (継続)	210	ヒトプリオン病における異常プリオン蛋白質の非中枢神経組織への広がり解明
〃	伊藤誠 医学部 放射線科, 講師	600 (継続)	180	大腸がん少数個腹部リンパ節再発に対する逐次免疫療法併用・寡分割放射線治療の標準化
〃	中山綾子 医学部 基礎看護学, 助教授	500 (継続)	150	看護師の交代制勤務継続を可能にする健康管理行動実践に向けた教育ツールの開発
〃	家崎高志 医学部 生理学, 助教授	1,100 (継続)	330	自己増幅型RNAとナノ脂質粒子DDSを用いた軟骨無形性症治療法開発研究
〃	水野昌平 医学部 内科学(血液内科), 准教授(特任)	800 (継続)	240	PVT1 RNAに着目した新たなリンパ腫の分子病態解明と新規標的治療への応用
〃	小川実加 医学部 中央臨床検査部, 講師	900 (継続)	270	血友病関節症の解明と新規治療法開発: 骨芽細胞, MSC, メトホルミンに着目して
〃	塩入達政 医学部 分子医学研究所 助手	700 (継続)	210	I型アレルギー反応の決定的セルグリン: 肥満細胞分泌顆粒への輸送機構
〃	青山正寛 医学部 脳神経外科学, 講師	300 (継続)	90	慢性硬膜下血腫にたいするエビデンスのある薬剤の解明
〃	林文子 医学部 看護学, 講師	1,000 (継続)	300	妊娠糖尿病の一次予防に関するエビデンスの構築: 非妊娠時の骨格筋量と血糖値の関連
〃	永沢亮 医学部 感染症・免疫学, 助教授	1,400 (継続)	420	微生物のコロニー形成可否を決定する因子の解明
〃	三岡裕貴 医学部 血管外科学, 講師	700 (継続)	210	静脈弁の機能に着目した一次性下肢静脈瘤予防法の開発
〃	小野寺一成 医学部 加齢医学研究所 教授	1,800 (継続)	540	患者神経細胞で高発現する早期病態因子に着目した球脊髄性筋萎縮症の病態解析
〃	山口真部 医学部 腎臓・リウマチ膠原病内科, 講師	600 (継続)	180	ANCA関連血管炎におけるグリコカリクスをバイオマーカーとした新規治療戦略の確立
〃	堀尾知弘 医学部 血液内科, 講師	1,000 (継続)	300	ヘムオキシゲナーゼ1遺伝子多型ゲノム編集造血幹細胞による生体防御機構の網羅的解析

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
若手研究 (基 金)	西 瑤 部 単 医 学 助 解 剖 学 助	900 (継 続)	270	Cadaveric investigation of the morphological and mechanical characteristics of aponeurosis on the mechanism of muscle strain injury
〃	西 須 大 徳 部 医 学 助 運 動 療 育 セ ン タ ー , 助 教	300 (継 続)	90	神経機能評価による三叉神経痛・三叉神経ニューロパチーの治療予測の確立
〃	高 橋 礼 子 一 師 災 害 医 療 研 究 セ ン タ ー , 講 師	1,200 (継 続)	360	大規模災害時の医療機関でのライフライン途絶に対する『籠城支援』教育アプリの開発
〃	成 定 明 彦 部 医 学 講 師 産 業 保 健 科 学 セ ン タ ー , 講 師	400 (継 続)	120	ウイズコロナ時代の労働者の熱中症の検討と予防対策の確立
〃	大 塚 俊 部 医 学 講 師 解 剖 学 講 師	2,000 (継 続)	600	身体運動や加齢に対する深筋膜の変化とその機序の解明
〃	陸 美 穂 部 医 学 助 教 病 理 学 助 教	2,000	600	新規転写抑制因子teashirt homolog 2 (TSHZ2)のスプライシング異常と病理診断への活用
〃	吉 本 隆 明 員 研 究 員	1,800	540	心理課題を用いた機能的MRIによる統合失調症における幻聴の神経基盤の解明
〃	成 田 晶 子 部 放 射 線 医 学 助 教 学 助 教	700	210	ハイドロゲル特性を活用した薬剤溶出能を有する血管塞栓コイルの開発
〃	田 中 博 之 部 医 学 准 教 授 呼 吸 器 ・ ア レ ル ギ ー 内 科 , 准 教 授	1,400	420	肺胞マクロファージ解析による肺胞蛋白症の病態進行機序の解明
〃	森 田 奈 央 子 部 感 染 ・ 免 疫 学 助 教 学 助 教	1,400	420	ヒトRSウイルスの病原性とインフラマソーム活性化機構
〃	三 浦 絵 美 梨 部 医 内 科 学 (糖 尿 病 内 科) , 助 教 学 助 教	700	210	クローン性造血と糖尿病性神経障害
〃	篠 原 健 太 郎 部 医 学 助 教 消 化 器 外 科 , 助 教	700	210	ロボット支援下手術技術向上における同期模倣学習の有用性についての検討
〃	齊 藤 卓 也 部 医 学 准 教 授 (特 任) 外 科 学 (消 化 器 外 科) , 准 教 授 (特 任)	900	270	血液中循環癌細胞を用いた新しい食道癌・膵癌の術前化学療法モニタリングの確立
〃	川 口 礼 雄 部 医 学 講 師 脳 神 經 外 科 学 講 師	1,000	300	慢性硬膜下血腫術後のアポトーシス活性化機序の解明と新規治療法の確立
〃	森 一 直 院 師 大 学 一 病 院 師 N P 部 , 看 護 師	300	90	診療看護師 (NP) と特定行為研修修了者の協働実践ケアモデルの構築
〃	名 仁 澤 英 里 部 医 学 助 教 解 剖 学 助 教	700	210	超早期NASH病態モデルを用いた疾患発症メカニズムの解明
研究活動スター ト 支 援 (基 金)	若 山 伶 部 医 生 学 助 教 衛 生 学 助 教	(再 延 長)	0	行動変容ステージが生活習慣と生活習慣病予防に及ぼす影響の縦断的検討
〃	深 谷 基 裕 部 看 護 学 准 教 授 母 子 看 護 学 准 教 授	(延 長)	0	臨床倫理コンサルテーションで初動者が必要とするスキルの明確化に関する研究
〃	下 田 博 美 部 医 学 助 教 (医 員 助 教) 糖 尿 病 内 科 , 助 教 (医 員 助 教)	1,100 (継 続)	330	アミノ酸利用不均衡と異常スフィンゴ脂質蓄積が糖尿病性多発神経障害に及ぼす影響
奨励研究 (補 助 金)	高 大 四 強 院 師 大 学 病 院 師 輸 血 部 , 臨 床 検 査 技 師	480	0	食能活性化分子標的薬による干渉作用を回避した先駆的検査法の開発研究

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
研究成果公開促進費 (補助金)	内 恒 成 武 医 学 部 生 物 学 教 授	500	0	失われた機能を再生させる－再生医療とは何だろうか？
特別研究員奨励費 (基金)	岡 田 梨 奈 特 別 研 究 員 (RPD)	1,100 (継続)	330	iPS細胞由来成熟運動ニューロンを用いた神経変性疾患の病態解明

- ・令和5年7月1日時点の情報を掲載。
- ・研究種目及び課題番号順にて記載。
- ・氏名は、e-Rad（府省共通研究開発管理システム）研究者登録名にて記載。
- ・「交付申請書」及び「支払請求書」を基に作成。
- ・令和5年7月までの転入転出を含む。
- ・基金については、今年度請求額を記載。
- ・研究活動スタート支援（新規）は交付決定次第記載予定。

本学講座等の主催による学会等

【学会名】

【開催日】

【会長等】

- ・第77回手術手技研究会 令和5年5月12日（金）・13日（土） 佐野 力
- ・第38回日本脊椎外科学会／第14回ASIA SPINE 令和5年6月15日（木）～17日（土） 原 政人
- ・第17回日本臨床栄養代謝学会中部支部学術集会 令和5年7月22日（土） 森 直治

第77回手術手技研究会

外科学講座（消化器外科）・教授 佐野 力

令和5年5月12日（金）・13日（土）の2日間にわたり、第77回手術手技研究会を開催致しました。本研究会は昨年までコロナ禍のためハイブリッド開催でしたが、今回はウインクあいち（愛知県産業労働センター）にて3年ぶりとなる完全現地での開催をさせていただくことができました。本研究会は、昭和48年に第1回が開催され、手術手技という普遍的なテーマを多領域の先生方に討論いただく、歴史ある重要な全国研究会であり、愛知医科大学外科学講座（消化器外科）として入念な準備を行って参りました。

現在までに高難度技術を必要とする手術がどこまで到達しているのか、そして、更なる手技の発展の



外科学講座（消化器外科）参加者による集合写真

ためには、次世代に何を引き継いでいくべきなのかとの思いから、開催テーマは「何を紡ぎ、何を継承するか」に決めさせていただきました。主題Ⅰでは、「外科手術のcutting edge」として、最先端の外科手技を通してどこまで手術治療が進歩しているかを臓器横断的に議論していただきました。また、主題Ⅱは「自慢の施設教育プログラム」とし、外科医の手術手技に関する教育プログラムをどのように構築しているのかを各施設からご披露いただきました。

主題26題、エキスパートビデオ5題、ビデオ賞6題、症例研究賞1題、指定研究賞1題、サージカルフォーラム113題など全体で272名の皆さまにご参加いただきました。年代別で見ると40代が一番多く、

次いで50代、30代となっており、全てのセッションで活発な討論が繰り広げられておりました。また、3年ぶりとなる全員懇親会を会場となったウインクあいちにて開催致しました。名古屋ならではのメニューもご用意させていただき、約60名の皆さまにご参加いただきました。伝統ある手術手技研究会の第77回当番世話人の大役を務めさせていただきましたことは、本学外科学講座（消化器外科）にとりまして大変な荣誉であり光栄に存じております。

末筆になりましたが、本会の開催に当たり皆さま方の多大なるご支援、ご協力を賜りましたことを心より御礼申し上げます。

第38回日本脊椎外科学会／第14回ASIA SPINE

脊椎脊髓センター・教授 原 政人

令和5年6月15日（木）及び16日（金）に第38回日本脊椎外科学会、6月16日（金）及び17日（土）には第14回ASIA SPINEが名古屋市のウインクあいちにおいて開催されました。【写真】新型コロナウイルス感染症が令和5年5月8日（月）から5類感染症になったことに伴い、オンサイトで開催できたこと、活発な会となったことを大変嬉しく思っております。

日本脊椎外科学会のメインテーマは「仁と芸道」、副題が「寄り添う気持ちと技術の伝承・発展」とし、ASIA SPINEにおいても同テーマで開催されました。そして、人を思いやる仁の心と、道を追いかける先に何があるのかについて、シンポジウム、一般演題、ポスター発表などで議論していただきました。

日本脊椎外科学会においては、シンポジウム4セッション、学術委員会シンポジウム、一般口演17セッション、ポスター発表202演題を企画したほか、これまでにない企画として、大会共同研究企画特別プログラムと今後spine surgeonを目指す医学生や研



修医を対象としたNeurospine Projectを立ち上げました。また、学術委員会シンポジウムにおいては、教育講演として本学医学部生物学の武内恒成教授にご講演を賜りました。ASIA SPINEにおいては、シンポジウム5セッション、一般口演12セッション、ショートプレゼンテーション33演題が行われました。

両会を通じた参加者は過去最高の826名で、海外からは100名の参加がありました。久しぶりの現地開催ということもあり議論が白熱し、大変実りのある会になりました。末筆になりますが、本会の開催に当たり皆さま方の多大なるご支援、ご協力を賜りましたことを心より御礼申し上げます。

第17回日本臨床栄養代謝学会中部支部学術集会

緩和ケアセンター・教授 森 直治

令和5年7月22日（土）ウインクあいち（愛知県産業労働センター）において、第17回日本臨床栄養代謝学会中部支部学術集会を開催致しました。【写真】

日本臨床栄養代謝学会（JSPEN）は、会員数が2万人を越える世界最大規模の臨床栄養の学術団体であり、中部支部学術集会は中部支部会員が集まる年1回の学術集会です。愛知、岐阜、三重、静岡の4県からなる東海支部、福井、石川、富山の3県からなる北陸支部、そして、長野県が一つに統合し、中部支部として初めての集合型開催となりました。参加者数の予想は難しく、当初は300名程度を想定していましたが、中部支部の各県のみならず、全国からも多数の事前参加登録を頂戴し、最終的には484名の方々に参加していただきました。

「低栄養を診断しケアする！」を本会のテーマとし、私の大会長講演を皮切りに、特別講演、教育講演、ランチョンセミナー、そして一般口頭発表24演題で、活発な討論が行われました。本学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座の藤本保志教授、栄養治療支援センターの前田圭介教授（特任）、救急集中治療



医学講座の苛原隆之准教授（特任）には教育講演をご担当いただき、愛知医科大学の臨床栄養に関する先進的な取り組みを紹介していただきました。比企直樹学会理事長始め、支部内外から参加された多くの方々から「活気溢れる支部学術集会」と高い評価をいただき、大盛況のうちに会を終えることができました。

本学術集会の開催に際し、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からご支援を賜りましたこと、この場を借りて厚く御礼申し上げます。



～大学・病院を支える笑顔豊かなスタッフ陣～

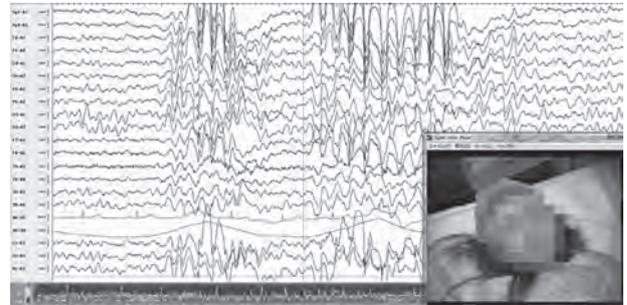
「Smile ～スマイル～」では、大学・病院で活躍する職員の笑顔にスポットライトを当てて、各部署における活動内容や取り組み等について紹介致します。

てんかんセンター

てんかんセンターは平成28年に設置されました。てんかんという疾患は、新生児から高齢者まで幅広い年齢で発症します。このように幅広い年齢の患者さんに対応するため、本センターでは精神神経科・小児科・神経内科・脳神経外科の4診療科が共同して、てんかんの患者さんの包括的な診療を行っています。

てんかん診療の基本は的確な診断です。てんかん発作ではないのに、てんかんと紛らわしい症状を起こす心因性非てんかん性発作など、しっかり鑑別を行うことが重要です。本センターでは、発作時脳波やMRI・PETなどの画像検査を併用して正確なてんかんの診断を行っています。

治療に当たっては、適切な薬剤選択が重要であることは言うまでもありませんが、薬剤だけでは発作を止



ビデオ脳波同時記録（脳波と同時に患者さんの様子を記録し、発作時の脳波を詳しく調べます。）

めることができないこともあります。そのような場合には外科的治療が有効である可能性があり、本センターでは外科的治療にも対応しています。また、てんかん患者さんは様々な心理社会的な問題をお持ちになることもあります。臨床心理士などを含めたトータルケアで患者さんの生活の質の向上にも努めています。

脳血管内治療センター

平成29年4月1日に新設された脳血管内治療センターは、開設後6年を迎えました。体にメスを加えることなく、カテーテルで血管の病気を治す血管内治療は、各分野において低侵襲医療の筆頭として急速に普及しつつあります。

脳血管内治療は、脳の血管病変について行うカテーテル治療で、開設後、年間200例以上の患者さんの治療を行う国内有数のセンターとなっています。特に最近では、脳塞栓症に対して、緊急に血栓を回収する血管内治療により、劇的に症状が回復する治療が脚光を浴びており、本院でも積極的に行われています。現場ではいつも和気あいあいとした雰囲気で行われ、特に、コメディカルの皆さんの意識は高く、撮像、看護などについて新しい取り組みを行い、積極的に学会発表もしています。教育・研究機関としての大学の使命を果たすべく、新しい機器開発、臨床データに基づく



脳血管内治療センタースタッフ集合写真

リサーチ、専門医、指導医の育成にも力を入れております。

今後も治療困難例に遭遇する機会が多いでしょうが、常にチャレンジする気概を持ち、安全確実をモットーに成果を上げていきたいと思っております。皆さまのご支援を宜しくお願い致します。

規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

臨床研修医の服務，処遇等に関する規程の一部改正

愛知医科大学病院臨床研修医の服務，処遇等に関する規程の一部が改正され，臨床研修医の給与が改められました。

施行日は，令和6年4月1日

「緊急事態発生時の緊急コール」の一部改正

「緊急事態発生時の緊急コール」（学長裁定）の一部が改正され，現状の運用に合わせて各種電話番号が改められました。

施行日は，令和5年8月1日

特任教員に関する規程の一部改正

愛知医科大学特任教員に関する規程の一部が改正され，特任教員の任期満了日に係る規定が整備されました。

施行日は，令和5年6月1日

院内がん登録委員会規程の一部改正

愛知医科大学病院院内がん登録委員会規程の一部が改正され，副委員長の選出方法が改められました。

施行日は，令和5年6月1日

生体情報モニターアラームコントロールチーム規程の制定

愛知医科大学病院における生体情報モニターの適切な管理を推進するチームを設置するため，愛知医科大学病院生体情報モニターアラームコントロールチーム規程が制定されました。

施行日は，令和5年6月1日

メディカルセンター訪問看護ステーション運営規程（医療保険）の一部改正等

訪問看護ステーションの人員配置を変更するため，以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和5年8月1日

【一部改正】

- ・愛知医科大学メディカルセンター訪問看護ステーション運営規程（医療保険）
- ・愛知医科大学メディカルセンター訪問看護ステーション運営規程（介護保険）